

# 卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島? 国生み神話が現実に 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

国生みの島 淡路島 弥生後期の淡路島北部の津名丘陵  
海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ山間地集落群が出土



## 国生み神話の淡路島が 卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす?

淡路島日本遺産 弥生後期から終末期 津名丘陵の山間地集落群の中心集落 舟木遺跡探訪 2018.8.29.

◎ 淡路島北部 瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷 淡路市野島

◎ 岘内に先駆けて鉄器化を取り入れ、鉄器加工や製塩など生産工房群を展開した  
山間地集落群の中心 舟木遺跡を訪ねる



卑弥呼の時代を解き明かす? 淡路島

弥生後期の大山間地集落群 淡路市舟木遺跡から弥生期の鉄製ヤスが出土

海の民や北部九州とのつながりを示す? 2018.3.23. 神戸新聞より

本年1月ご紹介した淡路島の北部津名丘陵 弥生後期の大山間地集落群の中心集落遺跡淡路市舟木遺跡から「かえし」があるなど弥生時代の北部九州の鉄器加工の先端化技術で作られた鉄製のヤスが出土した。

国生み神話があり、国内最大級の弥生の鍛冶工房村五斗長垣内遺跡の出土。そして、時代の大転換を示す多数の初期埋納銅鐸松帆銅鐸の出土している淡路島。弥生時代から古墳時代への大きな転換期 卑弥呼の時代に「淡路島が重要な役割を果たした」との期待がにわかに高まってきた。

国づくりが始まる当時の最重要課題は朝鮮半島の鉄素材の確保とその交易の霸権。

そんな中で、淡路島の北部津名丘陵には、各種生産工房を有し、交易を生業とすると考えられる淡路市「舟木遺跡」を中心とする大山間地集落群の存在が明らかになってきた。

新しい時代を開く集落群として注目を集め、淡路島の海岸部には野島や三原の海人とよばれる瀬戸内海を庭とする海の民がいることもあって、「淡路島の交易ネットワークが卑弥呼の時代の謎を解き明かすのではないか?」との期待の元にわかに脚光を浴びている。

そんな昨今 淡路島の発掘調査に注目が集まる中、3月23日淡路市舟木遺跡で弥生時代の「かえし」のある鉄製ヤスが、出土し、北部九州から持ち込まれたと考えられるとの新聞報道が関西に大きく流れた。



弥生期の鉄製ヤス出土

高度な技術 九州などから流通か

淡路市舟木遺跡で近畿初

2018.3.23. 神戸新聞 朝刊

近畿初の鉄製ヤスが出土した淡路島の五斗長垣内遺跡の上古の土器「五斗長垣内土器」が出土  
2017.1.16. 神戸新聞の報道より

鉄器の交易なりわいか

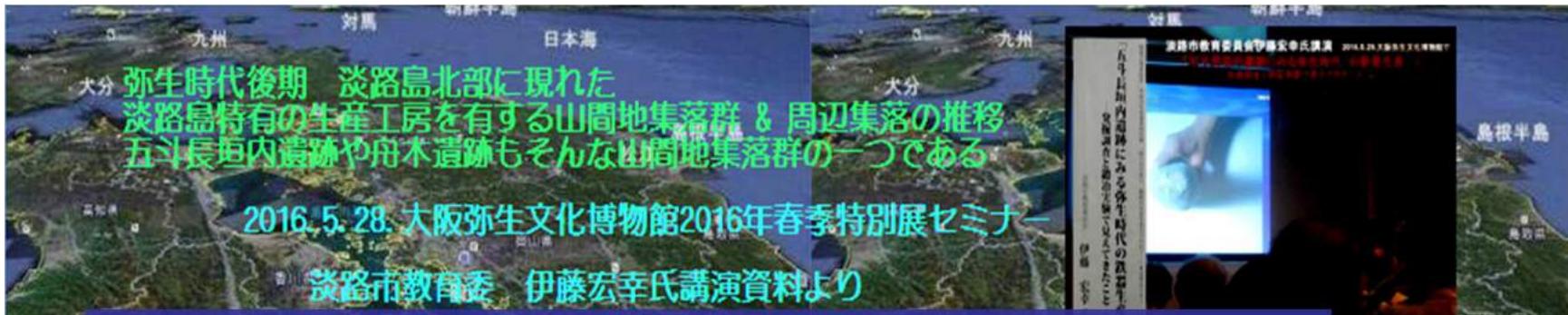
淡路弥生期の鉄器拠点

工房跡発見、近畿最大か  
五斗長垣内出土小菅工具出土

「海の民」との関係も推認

那馬台国府の社会へ解明期待

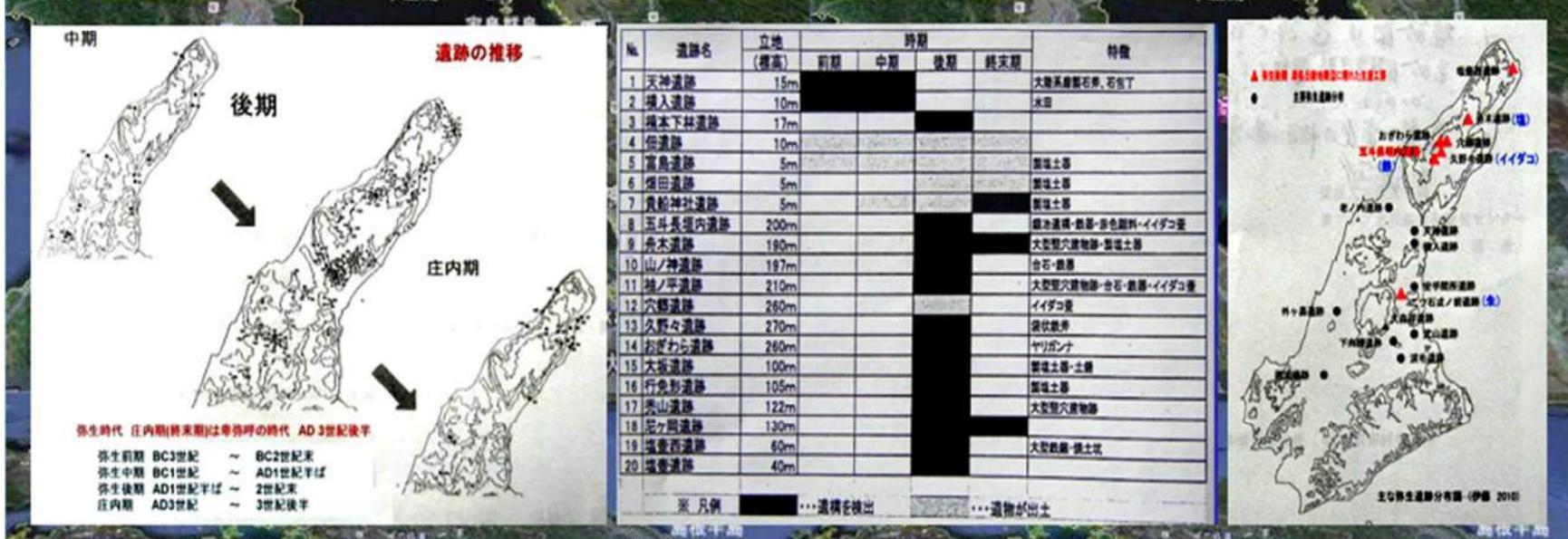
2018.3.23. 神戸新聞 朝刊



2016.5.28. 大阪弥生文化博物館2016年春季特別展セミナー

淡路市教育委 伊藤宏幸氏講演資料より

「和鉄の道」 <http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm> より



津名丘陵周辺 稲作が行えぬ高地に出現した軍事的性格を持たぬが、  
生産工房など多様な生活様式を営む弥生時代後期の集落遺跡群。

島では海岸よりも山間地を貫く方が幹線道路として機能しやすかった事情で生まれたとする向きもあり、  
流通の拠点集落と考えられている。五斗長垣内遺跡も山間集落群の一つ  
また舟木遺跡は終末期までも續く山間地集落遺跡の中心とみられている。



**淡路島北部 球生後期の山間地集落遺跡群の中心施設「淡路市 舟木遺跡」**

近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「球生の鐵器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土  
2017.1.26 神戸新聞他の朝刊より

**淡路弥生期の鉄器拠点**

**鉄器の交易なりわいか**

「海の民」との関係も推認

工房跡発見、近畿最大か  
「五斗長垣内」近く 小型工具も出土

淡路市に近畿最大の工房跡

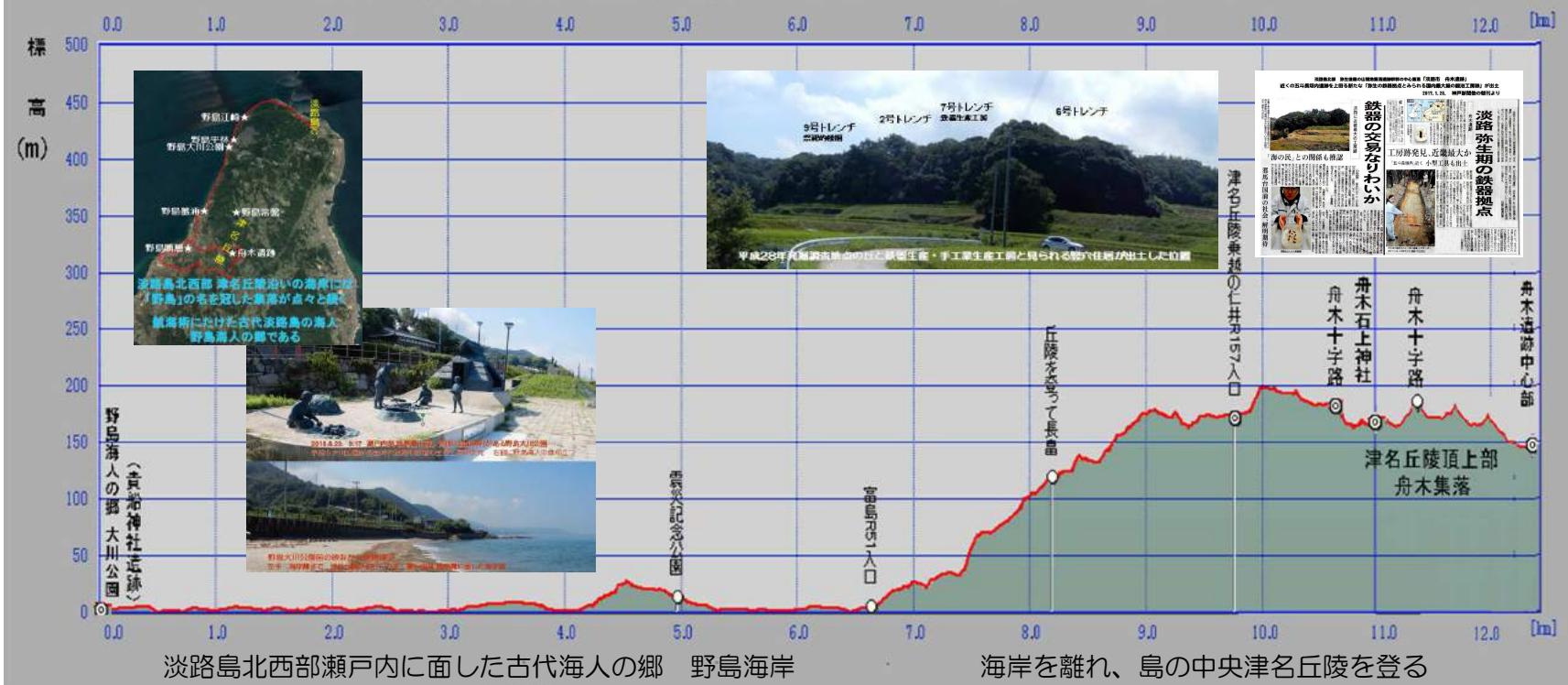
舟木遺跡

主な弥生遺跡分布図(伊藤 2010)





### 古代海人の郷 野島海岸から津名丘陵を登って 山間地集落群の中心「舟木集落遺跡」へ



# 卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に 弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

1. 淡路島の西北部海岸 野島海人の郷 野島

弥生後期の製塩工房 貴船神社遺跡

淡路市野島大川

2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点

弥生後期 鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木

## 国生みの島 淡路島

淡路島北部を南北に走る津名丘陵 その西北域の海岸は航海術にたけた古代野島海人の里  
航海術にたけ、朝鮮半島・日本各地と交易する淡路の海人の大和との密接な関係が記紀に記載  
されている

（淡路島の海人のルーツは安曇族といわれ、

国生み神話の原型もこの海人たちの伝承を初期大和王権が取り込んだとの説もある。）

また、この弥生後期からは古墳時代初期にかけ、背後の丘陵には「舟木遺跡」を中心に山間地  
集落群が出土し、集落には海人と密接な関係を示す鉄鍛冶・製塩などの生産工房があり、交易  
拠点の姿が浮かび上がってきてている。

鉄製産技術がなく、朝鮮半島の鉄に頼るこの時代 淡路島は畿内に先駆け鉄器文化を持ち込み、  
その生産拠点として 国づくりの先端を走った実像が見えてきた

国生みの神話が実像に 淡路島が今注目されている。

国内最大級の鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡の出土以来 何度もでかけたこの淡路島北西部沿岸  
の丘陵地ですが、五斗長垣内遺跡以外に山間地集落周辺を歩いたこと無し。

ぜひとも 舟木遺跡周辺を歩いてみたいと期待をつのらせながら、この夏の終わり淡路島へ





淡路島北部 津名丘陵  
海人族と関係が深い山間地集落群  
▲弥生後期・津名丘陵地帯に現れた生糸工芸



### 津名丘陵沿いの淡路島北西部の海岸「野島」は 野島海人の郷





津名丘陵の丘陵上にある舟木遺跡へは淡路ICをでて、淡路島北西部 西に播磨灘が広がり、東は南北に伸びる津名丘陵際の狭い海岸沿つて集落が続く一本道を南へ。

野島大川にある野島の海人像や古代の製塩作業が再現されている大川公園を見て、さらに南の富島漁港の海岸部 野島断層が展示されている北淡震災記念公園へである。

そこから、東へ入り組んだ丘陵地の中 集落や田園が段々に幾つも広がる津名丘陵に登り、舟木遺跡のある舟木集落へ。丘陵地というより、山は低いが、幾つもの枝谷が入り組んだ山麓の感がする。

地図では舟木集落が記載されて入るが、集落内は丘陵地の上部幾つもの丘に小さな道が入り組んで記載されているのみで、集落内を遺跡への道は難しいと聞く。

また、舟木遺跡は私有地で、すでに埋め戻され、勝手に遺跡の周知には入れず、道もよくわからないだろうと。「集落・舟木遺跡の中心部にある石上神社まで行けば、舟木遺跡周辺の地理的状況がわかるだろう」と聞く。

幸い舟木集落・舟木遺跡の中心部 磐座のある石上神社へのドライブナビが入ったのでこれを頼りに車を走らせることにして、8.29.朝 9時過ぎ、淡路ICをでる。

播磨灘に面した淡路島北西部の海岸を南へ野島の海岸部大川にある野島の海人像や古代の製塩作業が再現されている大川公園を経て、野島断層が展示されている震災記念公園へ。



## 弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

1. 淡路島の西北部海岸 野島海人の郷 野島

弥生後期の製塩工房 貴船神社遺跡

淡路市 野島大川

2. 津名丘陵の山間地集落群の中心・交易拠点

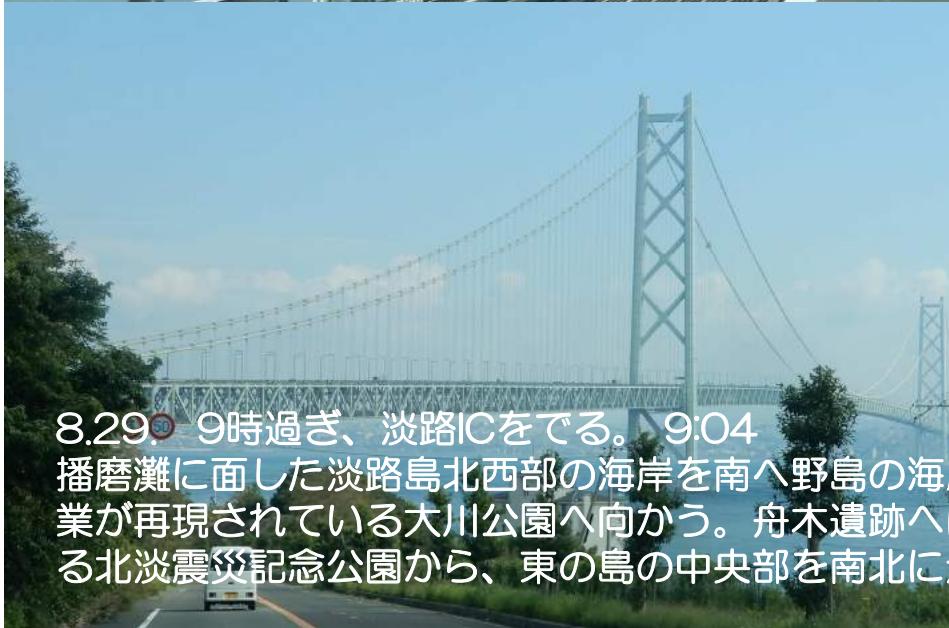
鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡

淡路市 舟木



2018.8.29. 明石大橋を渡って 淡路島へ

正面が淡路島 東西の海岸部まで広がる津名丘陵が、島の中央を奥へ南北に伸びている



8.29. 9時過ぎ、淡路ICをでる。9:04

播磨灘に面した淡路島北西部の海岸を南へ野島の海岸部大川にある野島の海人像や古代の製塩作業が再現されている大川公園へ向かう。舟木遺跡へはさらに南へ下り、野島断層が展示されている北淡震災記念公園から、東の島の中央部を南北に走る津名丘陵へ登る。

南北に伸びた津名丘陵が海岸部に迫る淡路島北西部の絵画沿い県道31号線を南に車を走らせる。  
点々と連なる「野島」を冠した集落は古代野島海人の郷

淡路島は、緑あふれる美しい海岸線をはじめとする豊かな海洋性景観を有し、また、くにうみ神話の島として、古い歴史とすばらしい伝統文化を有する島です。

兵庫県では、「緑あふれる道づくり」として、淡路島の西海岸を縦貫する淡路サンセットライン（県道31号線〔主要地方道福良江井岩屋線〕）において、地域の歴史、文化的遺産や自然環境を生かした、拠点緑化や沿道緑化を重点的に推進しています。

大川公園は、弥生時代から奈良時代にかけて塩づくりが行われていた「貴船神社遺跡」が存在することから、当時の「製塩風景」をモニュメントとし、また、万葉集で知られ、塩づくりを行ったとされる「野島海人」像及び、旧町（北淡町）の木「サクラ」をシンボル樹とする「緑の道しるべ」として整備しました。



弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

1. 淡路島の西北部 野島海人の郷 野島海岸  
弥生後期の製塩工房跡 貴船神社遺跡を訪ねる 淡路市 野島大川



津名丘陵の山裾が海岸部にまで伸びる道筋 2018.8.29. 野島江崎で 9:12  
10分ほどで灯台のモニュメントのある野島江崎の里 其の南に見える岬を回り込めば、  
野島海人像がある野島大川である。  
点々と「野島」の名前のつく集落がつづく。古代 野島海人の郷である





淡路島北部 津名丘陵  
海人族と関係が深い山間地集落群  
▲弥生後期・津名丘陵地帯に現れた生糞工芸

主要弥生遺跡分布



主な弥生遺跡分布図(伊藤 2010)

津名丘陵沿いの淡路島北西部の  
海岸「野島」は 野島海人の郷



Google





2018.8.29. 9:17 瀬戸内海 播磨灘に面し 背後に貴船神社がある野島大川公園

手前の大川公園が弥生時代後期の生産工房跡 貴船神社遺跡

公園左部分に古代の塩作りが復元され、右部に野島海人の像が立つ

左側奥 内に広がる丘陵傾斜地が古代 航海術にたけた野島海人の里 野島大川  
航海術にたけた野島海人は大陸・朝鮮半島と交易し 鉄鍛冶・製塩ほか先進技術を  
畿内に持ち込み日本各地と交易 その生産工房の一つと見られている

## 野島の海人の製塩工房跡 貴船神社遺跡 野島大川公園

野島の浦に位置する古代の製塩遺跡。熱効率の良い石敷炉が発見され、大量生産した塩は王権にも供されたと考えられる。日本書紀に登場する「野嶋の海人」の活動拠点とされ、現在は海人が生業とした土器製塩の様子をモニュメントで見ることができる。

(淡路島日本遺産 貴船神社遺跡 <http://kuniumi-awaji.jp/heritage/16kifune/> より)



2018.8.29. 9:17 野島大川公園

弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元



野島大川公園前の砂浜から南側遠望  
左手 海岸側まで 津名丘陵が迫り、右手 瀬戸内海 播磨灘に面した海岸線



2018.8.29. 9:17 瀬戸内海 播磨灘に面し 背後に貴船神社がある野島大川公園  
手前の大川公園は江戸時代後期の製陶の生産で賑わった  
今も多くの窯跡が残る



## 貴船神社遺跡

ここ大川公園一帯は、弥生時代から古代にかけて塩づくりを行っていた貴船神社遺跡が存在していました。兵庫県では、はじめての石敷炉が確認された遺跡であり、塩づくりの課程が推測できる貴重な遺跡です。播磨灘に面した海岸部に立地しており、明石市から西播磨の海岸はもとより瀬戸内海に浮かぶ家島諸島・小豆島や四国まで遠望できます。塩づくりの遺跡は弥生時代末から奈良時代にかけて長期間にわたって継続しています。

塩づくりには、濃縮した海水を作る行とその塩水を煮詰めて塩を取り出す2つの工程があります。それはじめの工程には「万葉集」に見られる「藻塩焼き」をあてる考證がありますが、今回は明らかにできませんでした。調査で明らかになったのは塩を取り出す工程です。濃縮した塩水を製塩土器に入れ、石敷きの炉に並べて煮詰め塩を取り出す作業を行っており、炉跡が22基以上確認されています。そのうちの19基は古墳時代末から奈良時代で、大阪湾沿岸では塩づくりが衰退する時期にあたります。

また、塩づくりに携わった古代人は万葉集や日本書紀にみられる野島海人と考えられます。貴船神社遺跡で最も盛んに塩づくりをした時期が野島海人の活躍したことと関係あるかもしれません。



塩づくり復元想像図



遺跡航空写真



石敷炉



調査風景



製塩土器



タコ壺



新羅陶器

出土遺物は多量の製塩土器の他に須恵器・土師器・弥生土器・新羅陶器・黒色土器・石器・鉄器・銅製帶金具があります。最も古い時期の遺物は弥生時代中期末(約1800年前)の壺があります。

製塩土器は、弥生時代末から出土しています。これから遺跡が廃絶する奈良時代まで製塩土器が含まれています。製塩土器が多いのは古墳時代末から奈良時代で、この時期が貴船神社遺跡の塩づくりの中心と思われます。

野島海人が使ったと思われる遺物に鉄製釣針・タコ壺・船形土製品があります。海との繋がりを示すものとして興味深い資料です。その他注目される遺物として新羅陶器があります。朝鮮半島から遠く運ばれてきた土器で、野島海人と海との関係の深さを示すものです。把手にヘラで描かれた顔が大変ユーモラスです。

# 貴船神社遺跡

ここ大川公園一帯は、弥生時代から古代にかけて塩づくりを行っていた貴船神社遺跡が存在していました。兵庫県では、はじめての石敷炉が確認された遺跡であり、塩づくりの課程が推測できる貴重な遺跡です。播磨灘に面した海岸部に立地しており、明石市から西播磨の海岸はもとより瀬戸内海に浮かぶ家島諸島・小豆島や四国まで遠望できます。塩づくりの遺跡は弥生時代末から奈良時代にかけて長期間にわたって継続しています。

塩づくりには、濃縮した海水を作る行 とその塩水を煮詰めて塩を取り出す2つの工程があります。そのはじめの工程には「万葉集」に見られる「藻塩焼き」をあてる考えがありますが、今回は明らかにできませんでした。調査で明らかになったのは塩を取り出す工程です。濃縮した塩水を製塩土窓に入れ、石敷きの炉に並べて煮詰め塩を取り出す作業を行っており、炉跡が22基以上確認されています。そのうちの19基は古墳時代末から奈良時代で、大阪湾沿岸では塩づくりが衰退する時期にあたります。

また、塩づくりに携わった古代人は万葉集や日本書紀にみられる野島海人と考えられます。貴船神社遺跡で最も盛んに塩づくりをした時期が野島海人の活躍したことと関係あるかもしれません。



塩づくり復元想像図



遺跡航空写真



石敷炉



調査風景



製塩土器



タコ壺



新羅陶器

出土遺物は多量の製塩土器の他に須恵器・土師器・弥生土器・新羅陶器・黒色土器・石器・鉄器・銅製帶金具があります。最も古い時期の遺物は弥生時代中期末(約1800年前)の壺があります。製塩土器は、弥生時代末から出土しています。これから遺跡が廃絶する奈良時代まで製塩土器が含まれています。製塩土器が多いのは古墳時代末から奈良時代で、この時期が貴船神社遺跡の塩づくりの中心と思われます。

野島海人が使ったと思われる遺物に鉄製釣針・タコ壺・船形土製品があります。海との繋がりを示すものとして興味深い資料です。その他注目される遺物として新羅陶器があります。朝鮮半島から遠く運ばれてきた土器で、野島海人と海との関係の深さを示すものです。把手にヘラで描かれた顔が大変ユーモラスです。





2018.8.29. 野島大川公園 弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元



熱効率が良く大量生産ができる石式炉が  
野島の海人たちによって、持ち込まれたと言う



2018.8.29. 野島大川公園 弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元



2018.8.29. 野島大川公園 弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元  
熱効率が良く大量生産ができる新しい技術 石式炉が、野島の海人たちによつて、  
持ち込まれたと言われる



新しい技術 石式炉が出土

野島の浦に位置する古墳時代から奈良時代にかけての製塩遺跡です。熱効率の良い石敷炉が発見されており、大量生産した塩は王権にも供されたと考えられます。日本書紀に登場する「野嶋の海人」の活動拠点とされ、現在は海人が生業とした土器製塩の様子をモニュメントで見ることができます。

●「古事記」の冒頭を飾る「国生みの島、淡路」と古代国家を支えた海人の宮みく」が平成28年度の「日本遺産」に認定されました。

●「日本遺産」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形、無形の様々な文化財群の総合的な活用を支援する取り組みです。

淡路島  
日本遺産文化財  
ガイド

## 貴船神社遺跡

きふねじんじゃいせき





野島海人の郷 野島海岸 野島大川 2018.8.29.  
野島大川公園前の砂浜から南側を遠望



野島海人の像が立つ野島大川公園 2018.8.29. 9:17  
弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元されている



2018.8.29. 9:17 野島大川公園  
手前の大川公園が弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元  
右部に野島海人の像が立つ



2018.8.29. 野島大川公園 の背後の丘陵地に風力発電の風車が建つ



2018.3.29. 古代野島の海人の郷 野島大川公園前の海岸線



2018.8.29. 古代野島の海人の郷 野島大川公園前の海岸線



2018.8.29. 古代野島の海人の郷 野島大川公園前の海岸線

弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

## 2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点

弥生後期 鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木

2.1. 淡路島西北海岸 野島から津名丘陵へ登って 舟木集落へ

2.2. 弥生後期 鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡



9:35 野島大川公園から舟木遺跡のある津名丘陵への入口北淡震災公園へ向かう



2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点  
弥生後期 鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡

2.1. 淡路島西北海岸 野島から津名丘陵へ登って 舟木集落へ



野島墓浦野から津名丘陵 大戸山周辺を遠望 2018.8.29. 9:47

この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある

五斗長垣内遺跡のシンポなどで何度も訪れた北淡震災記念公園はすぐ南

北淡震災記念館から淡路島北西部の海岸を離れ 東へ津名丘陵へ登ってゆけば

目的の舟木集落・弥生後期に丘陵地に広がった鉄や製塩・干しイイタコなどの加工・交易拠点集落群（淡路島山間地集落群）の中心「舟木遺跡」である



野島墓浦野から津名丘陵 大戸山周辺を遠望(1)

この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある

2018.8.29. 9:47



野島薹浦野から津名丘陵 大戸山周辺を遠望 (2)

この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある 2018.8.29. 9:47

## 北淡サンビーチ横 地図を再度確認する

震災記念館近く、カーナビは北淡路記念館の横を通過し、  
旧北淡町富島漁港から東へ折れて 県道を丘陵地を登り、  
舟木集落へ入る コースを示している。

でも調べた地図では 野島断層・震災記念館から東へ折れて、  
まっすぐ丘陵地へ登れば舟木集落であるはず。



少しゆくと左手に北淡震災記念館の標識がある三叉路。

この道に入れば、東へ道なりに丘陵地を登れば舟木集落へ行けそうであるが、  
でも 丘陵地の上は細い生活道路ばかりで、道の状態はよくわからない。

南の津名丘陵の上にある五斗長垣内遺跡へ当初出かけた時に  
道が細い生活道路のみで迷った経験があるので気になっている。



## 弥生時代後期 山間地集落群の中心 舟木遺跡への道 概略



国土地理院の地図で一応舟木遺跡までの道は調べ、北淡震災記念館からまっすぐ東へ津名丘陵を登れば、舟木集落まで行けそう。

でも車のナビは県道を通って、津名丘陵を登って、南から舟木集落にゆくことをリコメンドする。

丘陵の上で車が動けなくなるのも嫌なので

舟木集落周辺の津名丘陵を眺めに少し登り、丘陵地の様子を見て引き返し、ナビの通り県道を進み、南側から舟木集落に入ることにする。



海岸線を離れ東へ 北淡震災記念館の標識がある三叉路を東へ入る 2018.8.29. 9:48

すぐに北淡記念館の標識が見えるが、津名丘陵の山並み 舟木集落周辺部の状況が知りたくて、そのまま東へ丘陵地を登ってゆく。



北淡震災記念館の東へ入ると淡路島北部中央を南北に伸びる津名丘陵 2018.8.29.  
丘陵を一段上へ上がった丘陵の上が正面に 長畠の集落か? 丘の上にも集落が見える  
舟木の集落はもっと左手の丘の上である。 また道の左側は丘陵地の斜面に沿う崖



北淡震災記念館の東へ入ると淡路島北部中央を南北に伸びる津名丘陵 2018.8.29.  
道は左ヘループして丘陵地をの登って、舟木集落周辺の丘が見えてくる



野島断層・震災記念館の東 津名丘陵の中腹の十字路 丘陵地の正面上が舟木集落のようだ  
交差する道に沿って 入り組んだ谷筋が広がる入り組んだ地形。でもこのまま行けんこともない  
ナビはやっぱり県道をゆくことを進める。  
なんと言っても野島断層が走る丘陵地帯 無理せずに戻って、県道を舟木集落へゆくことに。



震災記念公園の東 津名丘陵中腹の十字路から眺める 舟木集落周辺 2018.8.29.



津名丘陵の中腹から見下ろす野島震災記念公園周辺の海岸部 2018.8.29.  
眼下には丘陵地の斜面を使った太陽光パネルがいくつも設置され、震災記念公園から登ってきた道や海岸部が見え、随分登ったことがわかる



震災記念公園の東 津名丘陵へ登る道 2018.8.29.



北淡震災記念館駐車場から眺める津名丘陵 舟木集落周辺遠望（1） 2018.8.29.





北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵 舟木集落周辺遠望(2) 2018.8.29.





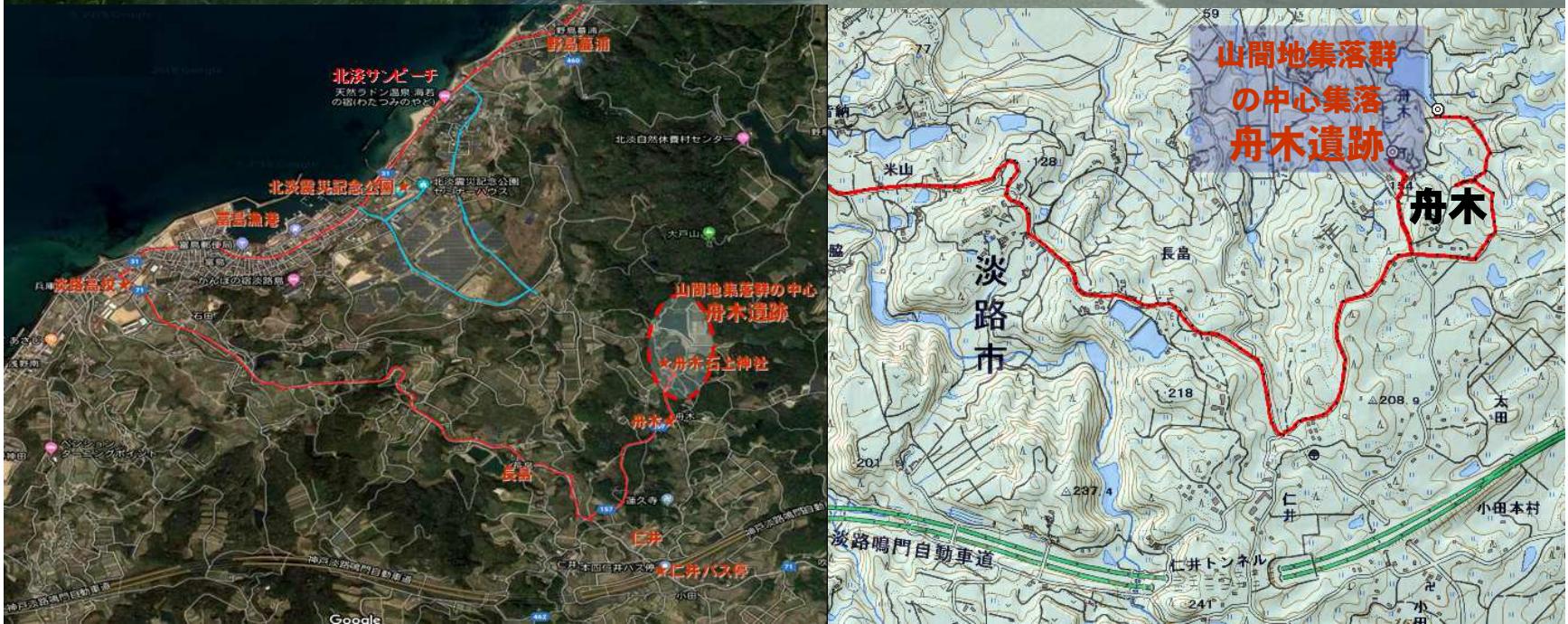
北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵 南東側 舟木集落から仁井周辺遠望



北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵 南西側 富島周辺  
震災公園内には台風20号で倒れたシンボルの大型風力発電風車の残骸が見える

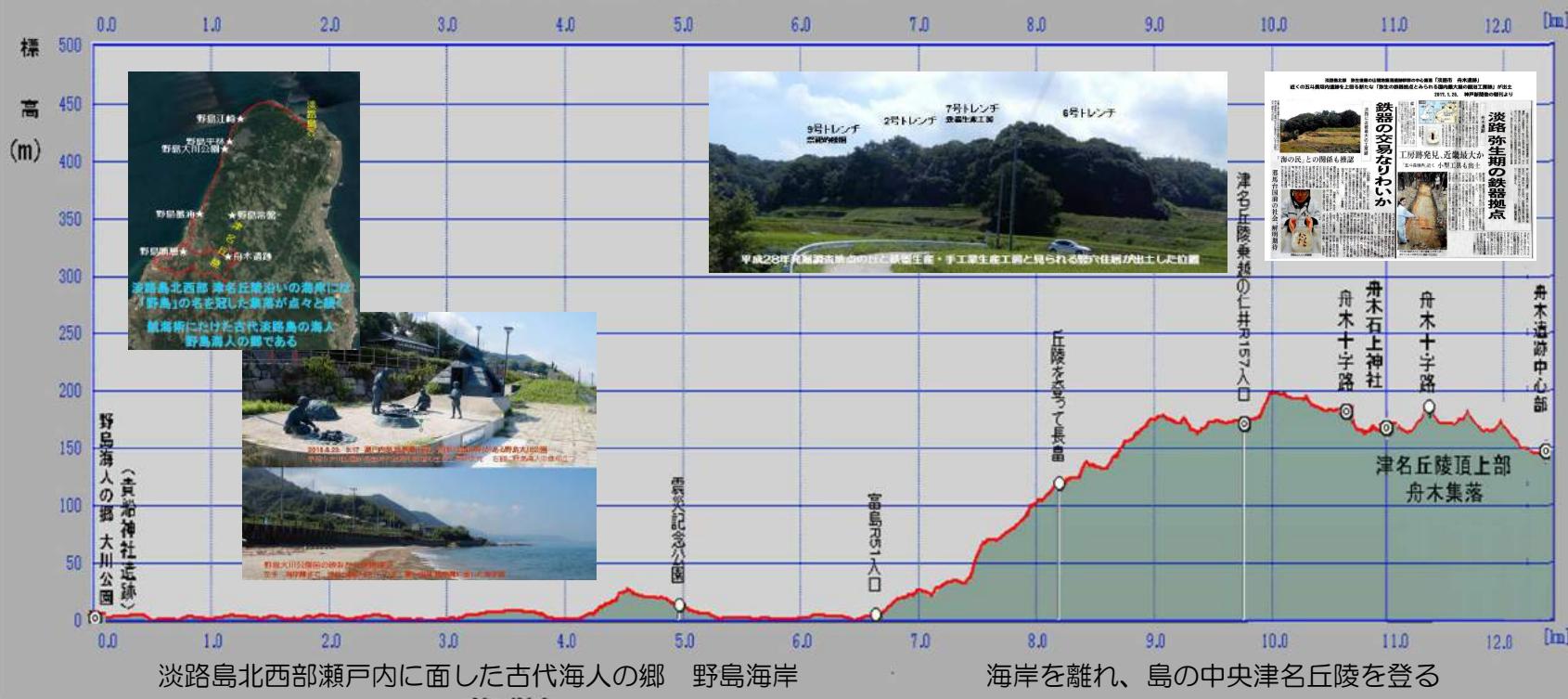


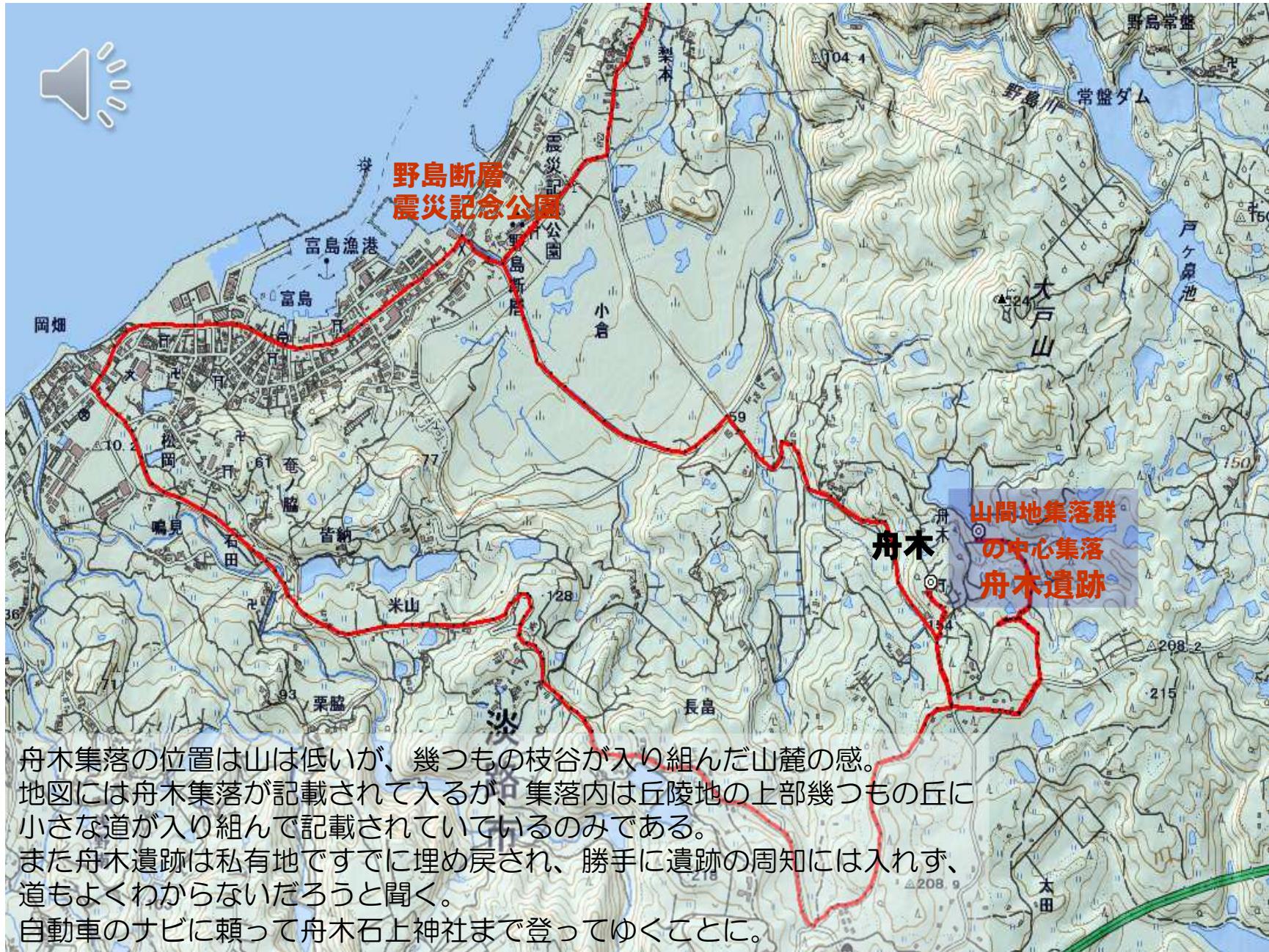
車のナビ通り、南の富島から東へ県道71号に入り、津名丘陵の山腹を斜めに登り、を通って、津名丘陵を登って、長畠の集落から丘陵の最上部 仁井の集落から北へ丘陵の最上部を北に走る県道157号を舟木集落にゆく 9:55





## 古代海人の郷 野島海岸から津名丘陵を登って 山間地集落群の中心「舟木集落遺跡」へ





舟木集落の位置は山は低いが、幾つもの枝谷が入り組んだ山麓の感。

地図には舟木集落が記載されて入るが、集落内は丘陵地の上部幾つもの丘に小さな道が入り組んで記載されていているのみである。

また舟木遺跡は私有地すでに埋め戻され、勝手に遺跡の周知には入れず、道もよくわからないだろうと聞く。

自動車のナビに頼って舟木石上神社まで登ってゆくことに。



海岸沿いの富島の街から東へ 島の中央 津名丘陵を乗越して  
東西の海岸線つなぐ県道71号線に入る



津名丘陵を東へ超える県道71号 長畠集落から眺める北側 2018.8.29. 10:04  
先程 震災記念公園から東へ入った谷筋が下に見えている



県道71号 長畠集落から眺める津名丘陵の山腹に広がる棚田 2018.8.29. 10:04



県道71号 長畠集落から眺める津名丘陵の山腹に広がる棚田 2018.8.29.10:04

西から東へ 津名丘陵の乗越しにある仁井集落標識 2018.8.29. 【1】 10:08  
県道71号は津名丘陵を乗越して、東海岸へ  
舟木集落へはすぐ先の十字路を北へ津名丘陵の上を進む県道157号に入る



西から東へ 津名丘陵の乗越しにある仁井集落標識 2018.8.29. 【2】

県道71号は津名丘陵を乗越して、東海岸へ

舟木集落へはすぐ先の十字路を北へ津名丘陵の上を進む県道157号に入る





に井集落から津名丘陵の上を北に走るやっと車がすれ違える狭い県道157号  
集落のない樹林の中曲がりくねった道に行く



県道157 舟木集落入口 西の富島・野島断層から登ってきた道との十字路 2018.8.29.

仁井の集落で教えてもらった十字路を左手 北に曲がれば舟木の集落  
あとで理解したのですが、先に津名丘陵を途中まで登ってきた道がこの道だった

*Google Earth より*



県道157号線十字路から南へ舟木集落へは急な坂道を下る



竹林の広がる丘を南に抜けるとぱっと視界がひらけ、  
津名丘陵 丘陵地の丘の上 舟木集落に到着



津名丘陵の上にある舟木集落 到着  
© 2018 ZENRIN

google earth

Google Earth



舟木集落 舟木石上神社前 【1】 2018.8.29.  
車のナビはここで終了 右ヘコンクリートの坂道への登り口に見落としそうな  
「石上神社」と小さな標識。車一台が通れる坂道 このすぐ上が舟木石神神社だった



舟木集落 舟木石上神社前 【1】 石上神社の案内標識 2018.8.29. 10:11  
右へコンクリートの坂道への登り口に見落としそうな「石上神社」と小さな標識。  
車一台が通れる坂道 このすぐ上が舟木石神神社だった

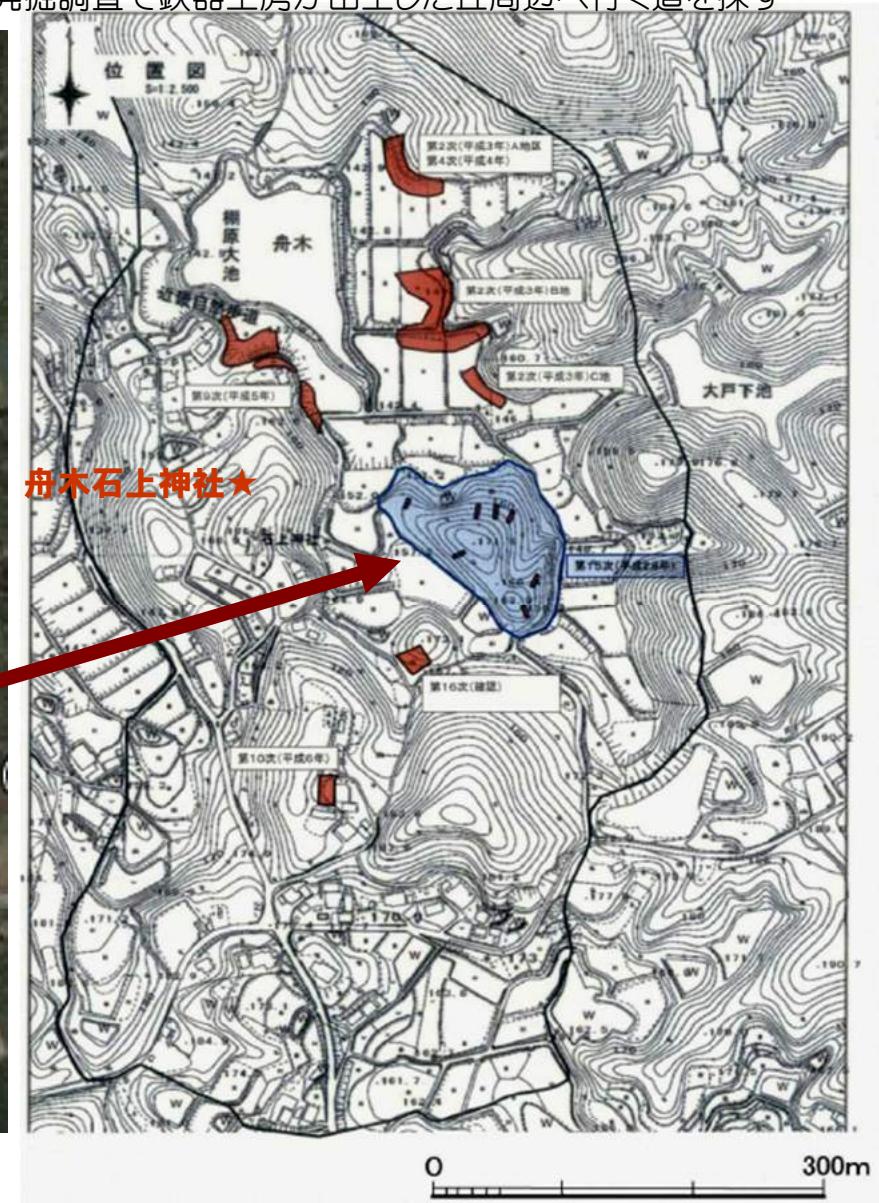
卑弥呼・大和連合諸國の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に  
弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

**2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点  
弥生後期 鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木**

- 2.1. 舟木集落の辯 舟木石上神社(舟木石神座)
- 2.2. 平成28年発掘調査で鉄器工房などが出土した現地周辺



**舟木遺跡の位置と遺跡エリア** 現在はすべて埋めもどされ、遺構は見られないが、  
舟木集落の拠り所 舟木石神神社へ行き、平成28年度発掘調査で鉄器工房が出土した丘周辺へ行く道を探す





舟木集落 舟木石上神社（舟木石上座）の鳥居前 【1】 2018.8.29. 10:13  
小さな鳥居の前に「女人禁制」の石標と石上神社の概説案内板があり、  
家内を残して、この奥神域の森の中に入ると大きな磐座 石上座が祀られていました



舟木集落 舟木石上神社（舟木石上座）の鳥居前 【2】  
小さな鳥居の前に「女人禁制」の石標と石上神社の概説案内板があり、  
家内を残して、この奥神域の森の中に入ると大きな磐座が祀られていました

# 舟木石神座と女人禁制

## ★日の神の信仰

北緯三四度二二分の線上 伊勢、神島、堀崎山、  
俱留尊（三重県）→室生寺、長谷寺、三輪山、  
二上山（奈良県）→日置莊、大鳥神社（大阪府）→  
伊勢久留麻神社、当石神座（淡路島）の各地で  
古くから日の神信仰していたことが明らかになった

（昭和五十五年二月NHKテレビ放映）

## ★祭

そもそも日の神は、太陽神の本体として天照皇大神  
と大日如来が想定され所によってそのどちらかを  
祭っている地もあり、両者を合祭している所もある  
この石神座は両者を勧請して祭ったものである。

## ★日を迎える座と日を追う座

これら太陽を信仰する地に「日を迎える座」（朝日に  
向かって祭事を行う）と「日を追う座」（夕日に向かって  
祭事を行う）がある。そのうち前者は男性が祭事  
をつかさどり後者は女性が祭事をつかさどってきた  
したがって女人禁制はここからきたものである  
現在この制度がくずれているなかで当地は今なお  
里人の間で固く守られ、民族学上からも貴重な  
存在である。



今なお残る「女人禁制」の舟木石上神社（古代の祭祀場 舟木石神座）  
春分＆秋分の日に太陽が通る「太陽の道」の「日の神信仰」一番西の端にある磐座  
林に包まれた磐座の後側には幾つも巨石・石組があり、  
2000年を経る今も守り継がれている祭祀場である



この舟木石神座は弥生時代後期の舟木遺跡域の一部で、標高約150メートルに位置し、  
約40ヘクタールに及ぶ舟木遺跡の中央部伊勢の森とも呼ばれる地。その巨石祭祀跡として  
位置づけられ、2000年以上続く現役の祭祀場で、祭祀は今も厳粛に続けられていい、  
この地は弥生時代から続く交通の要衝でもあり、重要な集落であったろう。

「ライン北緯34度32分の線 春分＆秋分の日に太陽が通る太陽の道」  
奈良県の磐墓古墳を中心に東の端がアマテラス大神を祀る伊勢となり海上の島、神島へ  
磐墓古墳からほぼ同じ距離を西の端へ進むと 淡路島 伊勢の森の伊勢久留麻神社があり、  
その西の峠を越えたところに舟木石神座がある。

「太陽を信仰する地には、「日を迎える座」と「日を追う座」があるといい、  
それぞれ朝日に向かって、夕日に向かって祭事をを行う。  
前者は男性が、後者は女性が祭事を司るとされ、  
この舟木石神座は前者にあたり、長らく女人禁制が守られてきた」という。



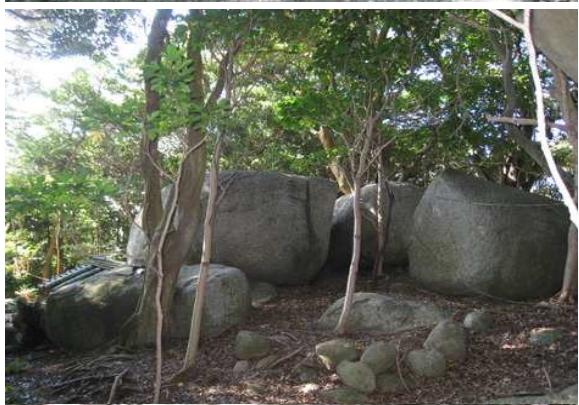
舟木神社磐座 舟木石上座



### 舟木神社磐座 舟木石上座

この周辺からも弥生時代の遺物が出土 今に至るまで 舟木の集落が守ってきた磐座  
この磐座後ろ側には 磐座を取り囲んで、巨石や組石が幾つもあり、祭祀の場であった





林に包まれた磐座の後側に回り込むと  
幾つも巨石・石組があり、2000年を経る今も守り継がれている祭祀の場



舟木神社 舟木石上座 【2】



女人禁制で、女性は磐座の神域には入れませんが、下の谷筋から巡ると  
磐座を拝せるようになっていました。

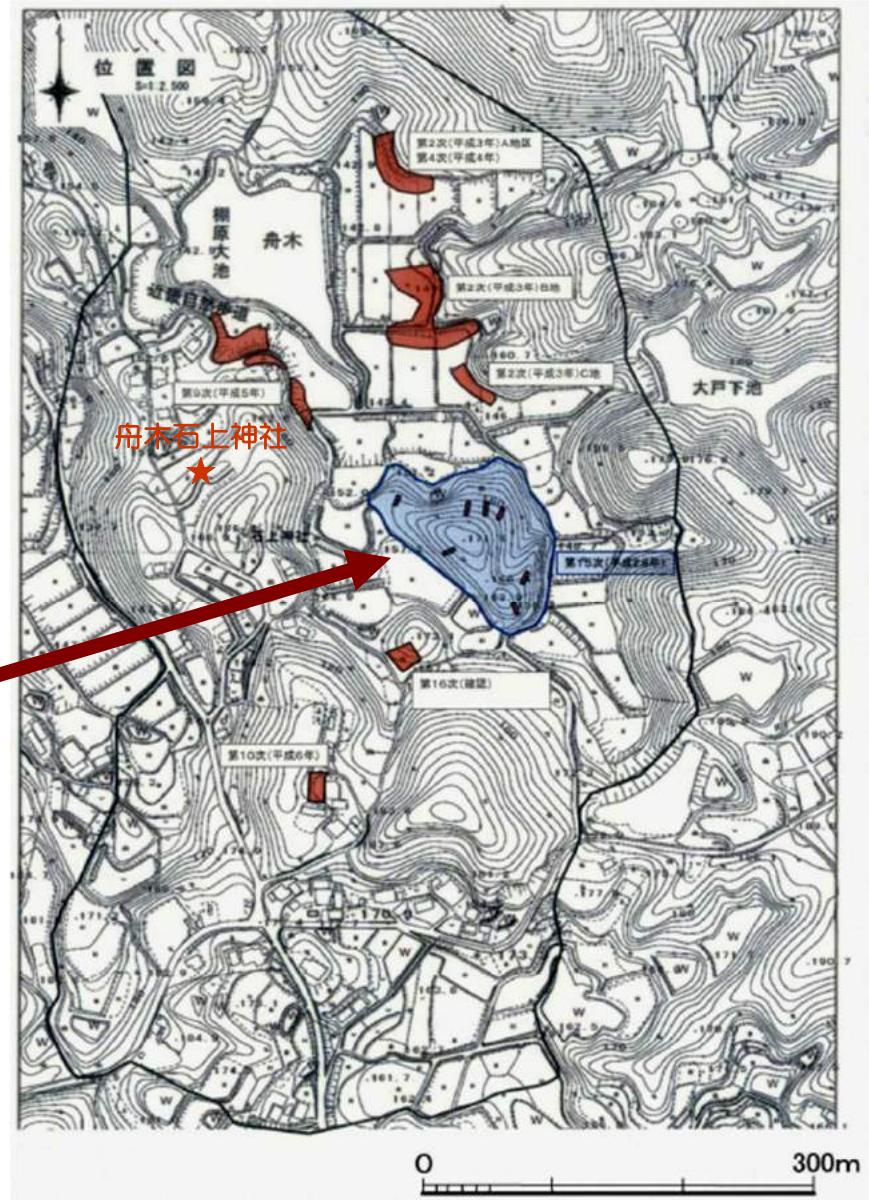
舟木石上神社 神域に入れぬ女性のための丘の下から舟木石上座を拝する道【1】



舟木石上神社 神域に入れぬ女性のための丘の下から舟木石上座を拝する道【2】

# 舟木遺跡の位置と遺跡エリア

現在はすべて埋めもどされ、遺構は見られないが、平成28年度発掘調査で鍛冶工房が出土した丘周辺へ行く道を探す



この石上神社の神域も、弥生後期の舟木集落遺跡域にあり、この周辺から大型の器台形土器などが発見されていると聞く。

舟木への道と聞き、舟木石上神社へ行くといふと「舟木石上神社の磐座は女人禁制 神社の中へは入れないが、下の道からも、磐座は眺められる」と聞いてびっくりしましたが、パワースポットとの表現もあるが、森の中 ひつそり静かに座す磐座には 歴史の重さを感じました。

海岸からは一番奥の山の集落 都市化が進む中 弥生時代から変わることなく この磐座を中心にして集落が維持され、今に続いている。

舟木遺跡の広いエリアの殆どが、私有地であることも その表れかと。



## 平成28・29年発掘調査で鉄器工房などが出土地周辺へ向かう

平成28・29年度発掘調査され、鉄器工房の周辺へ行きたいのですが、道は生活道路を示す線になっていて、1/12500の地図でもよくわからない。車がすれ違えぬ生活道路で 遺跡エリアである集落内ほとんどが私有地のようだ。おいそれとは入って行けぬ。もう一度 石上神社の前へ戻って道を検討する。

平成28・29年発掘調査された丘の周辺 棚原大池の辺りまで、行けるのだろうか… ちょうどこの石上神社の森を東に抜けたところですが、道がない 淡路市教委資料の舟木遺跡エリアの地図を見比べながら検討する。集落の中で道を探すよりも、もう一度南の県道157号線に戻って、少し東へ下り、人家のない丘の間の道から棚原大池に行く細い道を選んだ。



舟木集落 舟木石上神社前 10:25





県道157号線舟木の十字路に戻り、舟木集落の丘に沿って東へ  
棚原大池や平成28年発掘調査地の丘へ回り込める東の入口へ向かう



gle Earth

舟木集落の南側この周辺も舟木遺跡のエリア内 県道157号線 舟木より、丘陵地の南側

google earth



地図によれば 県道を舟木集落の丘に沿って  
東へ坂道を回り込んだあと、右へ曲がる角の細い道とが入口でした

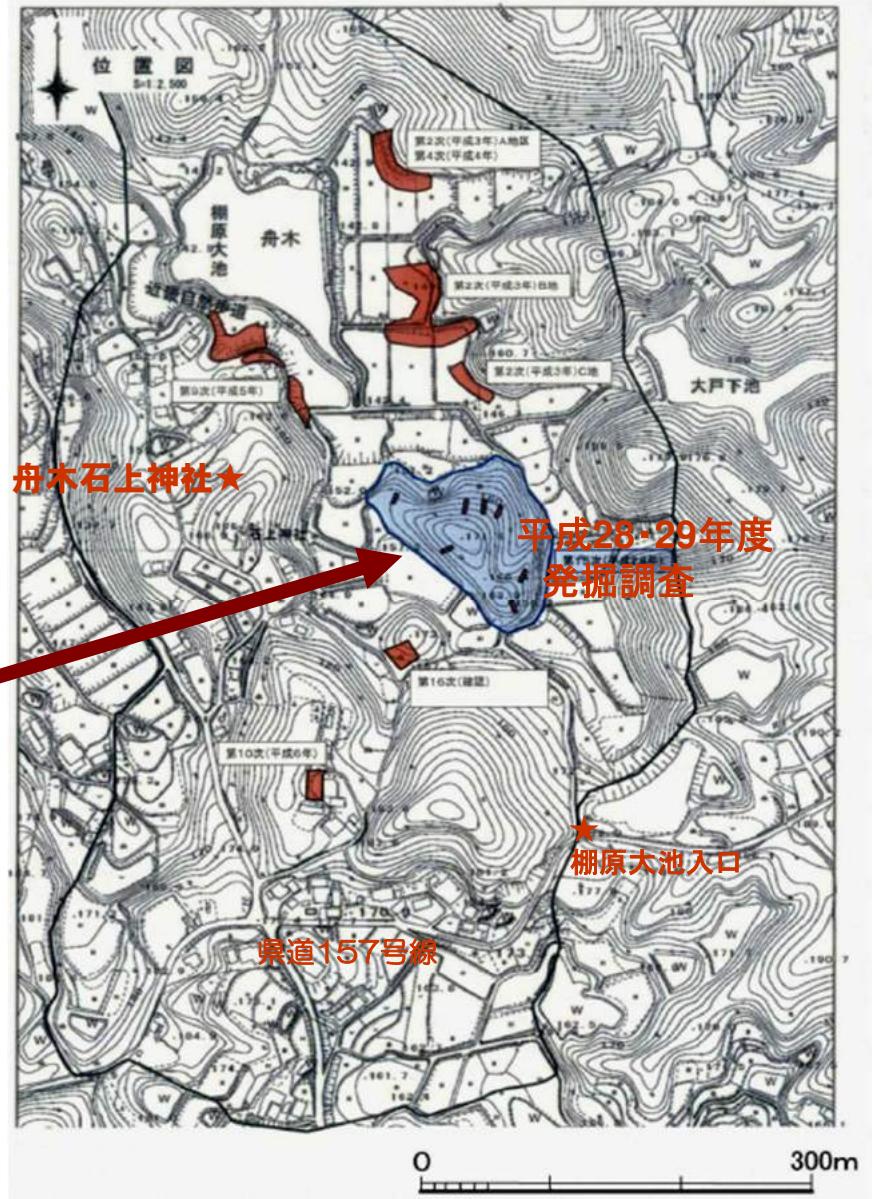




県道157号線 棚原大池や平成28年発掘調査地の丘へ回り込める東の入口 10:32  
地図を見ていなければ、見落としてしまう 車一台が通れる細い農道?が奥へ伸びている



## 舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア





丘の間を抜けると 舟木遺跡エリア内の圃場整備された丘陵地の田園に 南の県道側を眺める 10:35

この地点北側では 道が右に折れ曲がり、その角に広場があって 左の丘の手前に池がある。左へ農道があり、中央から池の縁を奥へ道があり、ここが平成28年調査された丘の南の登り口のようだ。 私有地なの発掘地点には入れないので右へ丘を回り込んで、北側の棚原大池へ



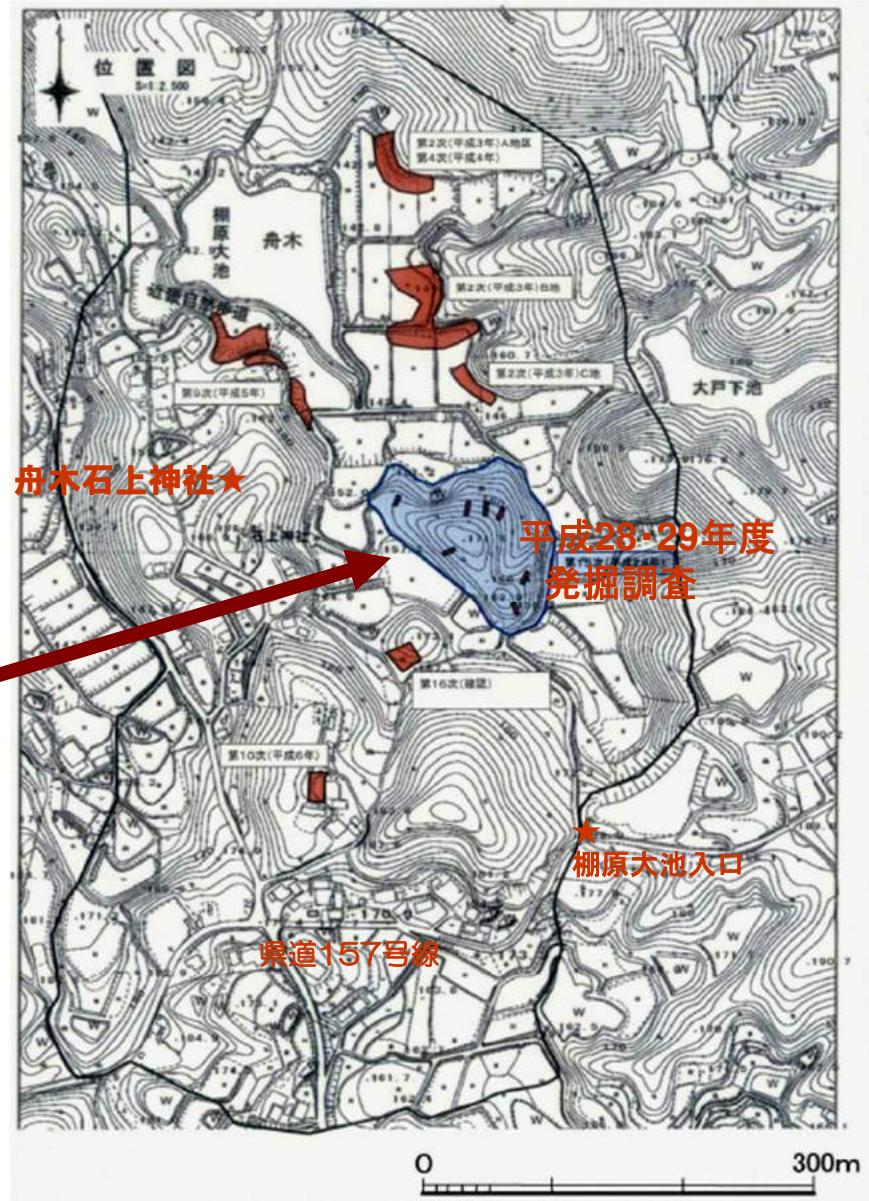
南側の丘の間をくぐり抜けると 視界がひらけ、ぐるりと周囲を幾つの丘に囲まれ、  
圃場整備された舟木集落の田園 棚原大池を中心とした舟木遺跡エリアの中央部【1】10:50



南に今通り抜けってきた平成28年発掘調査域の丘と背後に舟木の集落  
東の中央から北に棚原大池かござり、其の南端に近畿自然歩道の案内標識が見える



## 舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア



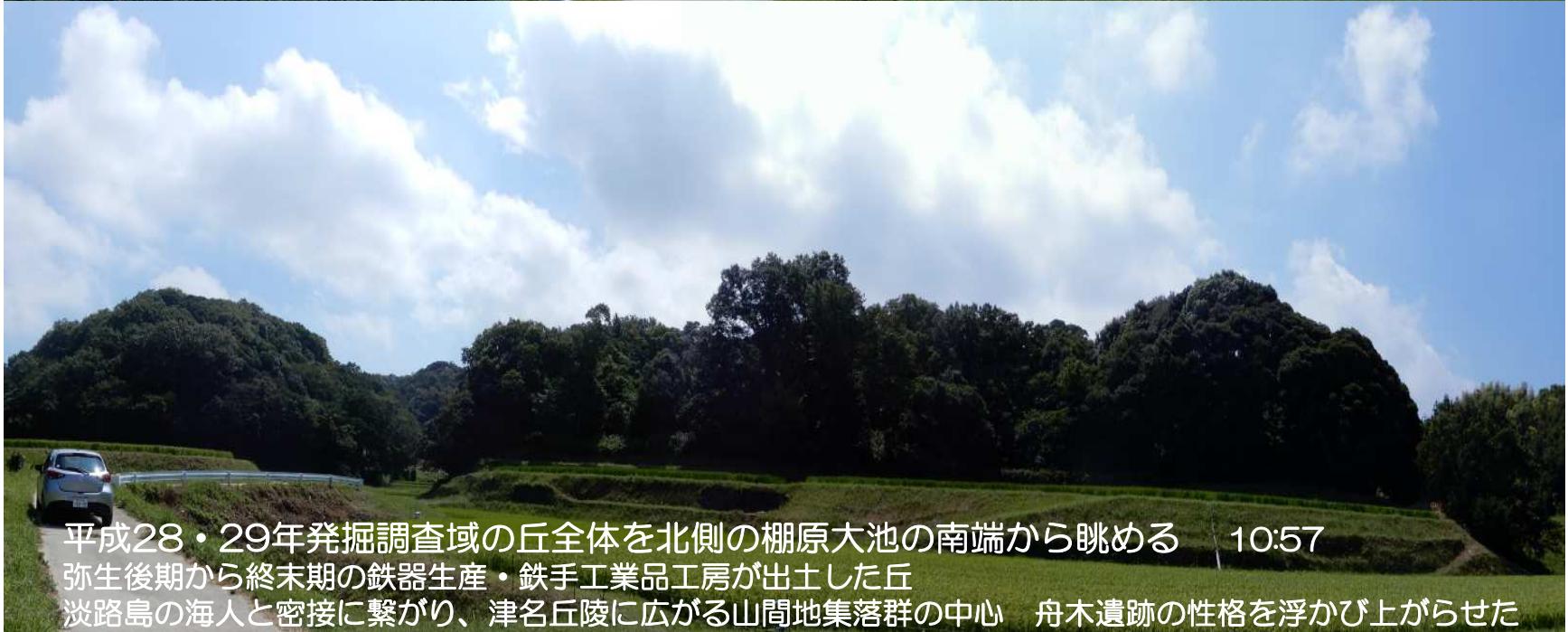
丘の間をくぐり抜けるとぐるりと周囲を幾つもの丘に囲まれ、  
良く圃場整備された舟木集落の田園 棚原大池を中心とした舟木遺跡エリアの中央部【2】



東の中央から北側に棚原大池が広がり、其の南端に近畿自然歩道の案内標識が見える



南側 通り抜けてきた平成28・29年発掘調査域の丘  
弥生後期から終末期の鉄器生産・鉄手工業品工房が出土した丘



平成28・29年発掘調査域の丘全体を北側の棚原大池の南端から眺める 10:57  
弥生後期から終末期の鉄器生産・鉄手工業品工房が出土した丘  
淡路島の海人と密接に繋がり、津名丘陵に広がる山間地集落群の中心 舟木遺跡の性格を浮かび上がらせた

淡路島北部 弥生後期の山間地集落遺跡群群の中心集落「淡路市 舟木遺跡」

近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鐵器拠点とみられる国内最大級の製鐵工房跡」が出土

2017. 1. 26. 神戸新聞他の朝刊より

舟木道助著「現地は木々に  
舟木(撮影・内田和紀)

山本義徳



「海の民」との関係も推認

中華書局影印

邪馬台国前の社会、解明期待



#### 名取市出土的小型铁器

## 鉄器の交易なりわいか

A photograph showing a landscape with dense green trees in the background and a body of water or marshy area in the foreground.

（松島鐵道）（西あわじ市）や、五井内港跡（淡路市）など、跡時には大きな港町が相次ぐ淡路島。近畿地方の鉄道網開拓を推進される「舟木義重」（同）の脚音が流れ、古よりでなく、多くの日本全国開拓の日本社会のけいが島の果たした役割の解説につながる説明が並んでいた。

# 工房跡発見、近畿最大か 「五斗長垣内」近く 小型工具も出土

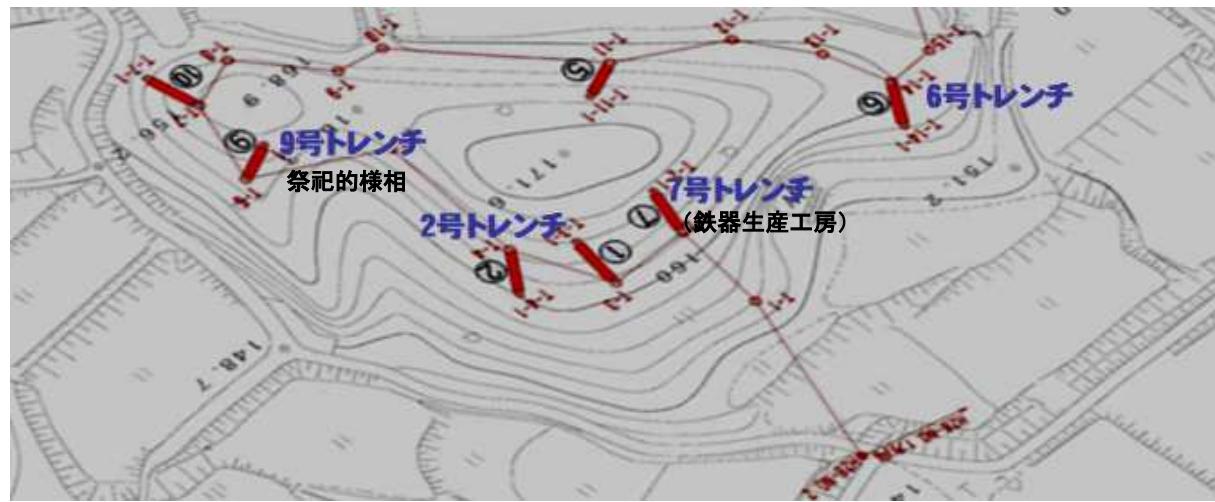


伊の跡が確認された工房の遺構。土が赤っぽく  
煙けむる=福島市赤木(櫻町・内田世紀)

## 淡路弥生期の鉄器拠点

（29面に開道記事）  
高崎市市長木川の「新幹線時代の開拓地開拓農業」（以下、高崎市長木川）によると、高崎市は「新幹線時代の開拓地開拓農業」で、手土産を生産した可能性のある十ヶ所、栽培技術不足ながら足りなかった。日暮里と向島の両教育委員会がJR東日本に開示した過去に同市で見つかった新幹線時代の開拓地開拓農業

明進は川島を睨みやがれやうなものになかった。二つの裏腹はわざとめぐらすの距離にはまだ間隔十七丈一方、舟木では



平成28年発掘調査地点の丘と鉄器生産・手工業生産工房と見られる竪穴住居が出土した位置



No.9 トレンチ



No.2 トレンチ全景



No.7 トレンチ



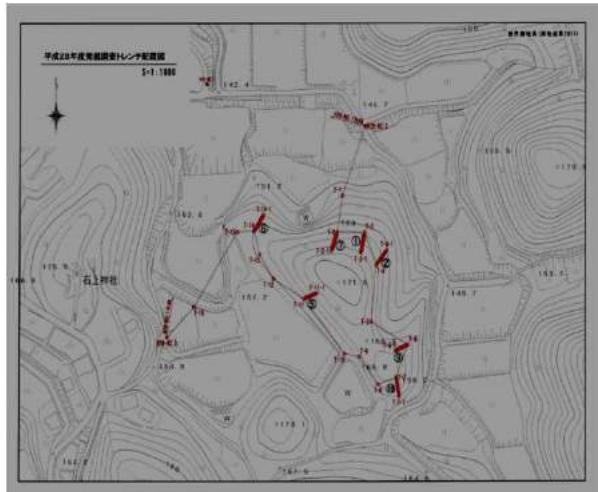
No.6 トレンチ



No.7 トレンチ底面 (炉跡)

No.9 トレンチ土器出土状況

平成28年発掘調査地点の丘と鉄器生産・手工業生産工房と見られる竪穴住居が出土した位置



No.2 トレンチ全量



No.6 トレンチ



No.7 トレンチ



No.6 トレンチ



No.7 トレンチ



No.7 トレンチ焼土面（炉跡）



No.9 トレンチ



No.9 トレンチ土器出土状況



No.9



平成 28 年度舟木遺跡出土鐵器  
武器は出土せず ヤス・釣り針など  
小型漁労関係具とその加工工具が多い

広報淡路 2018年5月号 2018.5.5.

<https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF>



# 近畿初 鉄製ヤスが出土

~平成29年度 舟木遺跡の発掘調査成果を発表~

市教育委員会は、3月22日、平成29年度舟木遺跡発掘調査の成果を発表。魚を突く鉄製漁具「ヤス」や新たな鉄器工房跡などが見つかりました。

弥生時代の鉄製ヤスの出土は近畿で初めてです。航海技術を持つ「海の民」によって、九州北部などからもたらされた可能性があります。



① 弥生時代の鉄製漁具「ヤス」  
 ② 鉄製の釣り針  
 ③ 二次元レーザー測量による赤色立体地図。矢印位置が調査場所。北側に遺跡が広がる可能性が出てきた。  
 ④ 開穴建物跡。示している場所で伊が見つかった。  
 ⑤ まとまって見つかった弥生土器

平成29年度 平成28年度と同じ丘陵部 前年度出土した3棟の竪穴住居を見下ろす頂上部で1棟の鍛冶炉のある大型竪穴住居が出土。また本年も104点の鉄器のほか土大量の土器や出土。其の中に鉄製ヤスも含まれていました。 わかに イイタコ壺や製塩土器もふくまれていました

神戸新聞 Next 2018.3.23. 記事 書き写し 弥生期の鉄製ヤス出土 淡路で近畿初

兵庫県淡路市舟木にある弥生時代の山陰地帯遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、鉄製のヤスが見つかり、同市教育委員会が22日、発表した。弥生期の鉄製ヤスの出土は山陰地方や九州北部で例があるが、近畿では初めてという。標高約150メートルの山上にある同遺跡から漁具の鉄器が見つかったことで、同市教委は鉄器流通の背景に、海を往来しながら生活していた「海の民」のネットワークがあったことを示す貴重な資料とみている。出土した鉄製ヤスは長さ16・5センチ、幅は最大1・4センチ。全体が鏽で覆われていたが、エックス線撮影で分析した結果、先端から約1・5センチ下方に「かえし」が見られた。ヤスや釣り針にかえしをつくるには高度な技術が必要といい、鉄器製造が盛んだった九州などから持ち込まれた可能性がある。

また、2016年度調査の出土品から、鉄製の釣り針も確認された。弥生期の釣り針の出土は、県内では会下山遺跡（芦屋市）に次いで2例目という。

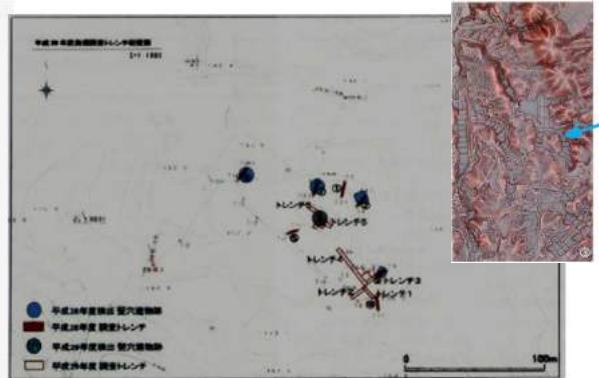
弥生期の鉄製ヤスや釣り針は、山陰や九州北部で出土する例が多い。愛媛大東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「山陰は九州から鉄製漁具を受け入れ、漁民が鉄器の交易を促進した」と分析。今回の発見で、漁具が日本海側だけでなく「瀬戸内側を伝わって来た可能性もある」と指摘する。

今回の調査で淡路市教委は、3次元レーザーを使って上空から同遺跡の測量も実施。地表面の起伏を詳細に分析した結果、遺跡の範囲が從来より北に約300メートルほど広がる可能性があることも分かった。

調査成果の報告や出土遺物の展示は25日午後1時半から、同市小倉の北淡震災記念公園セミナーハウスである。申し込み不要。同公園TEL 0799・82・3400



出土したヤス エックス線で撮影した画像には「かえし」があることが分かる（淡路市教委提供）



トレンチ5 (2m×10m)・トレンチ7 (2m×6m)

尾根の頂上部に指定したトレンチ5・7で、直径が約8mの窪穴探査1件を発見しました。この窪物跡からも小さな鉄片が出土しており、鐵ぬ工房と考えられます。楚部の床面が中央部に比べて一段高くなっている高床面を持っており、その上で3ヶ所の焼土面を検出しました。その内の一つは、一部が白色化し、その部分が鍛冶していることから高溫の熱を受けている可能性が高く、鐵冶炉とみられます。南北壁際の幅約2mの範囲に底や側土が堆積している部分があり、その部分の廣尾跡（壁際の窓）が内側に開けている、これまでに例の無い構造であること、さらには、通常あまり人が暮らさないくらい裏側の頂上部に建てられた窪物跡で、前年度の調査で発見した鐵ぬ工房を含む3種の建物を見下ろす場所に位置していることから、これら工房建物群の中でも特別な役割を担った遺物の可能性も既定されます。

（右等高の矢印が仰跡の位置）

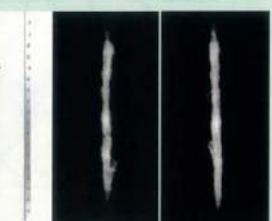


窪物跡

鉄製道具

・鉄製ヤス

全長約16.5cm、最大幅約1.4cmの形状の鉄器で、X線撮影の結果、鋭く尖る先端と丁寧に研磨出した逆刃（かえし）が上面に認められます。弥生時代のものとしては、近畿地方でははじめての発見となる食事用鉄器です。トレンチ4から出土しました。



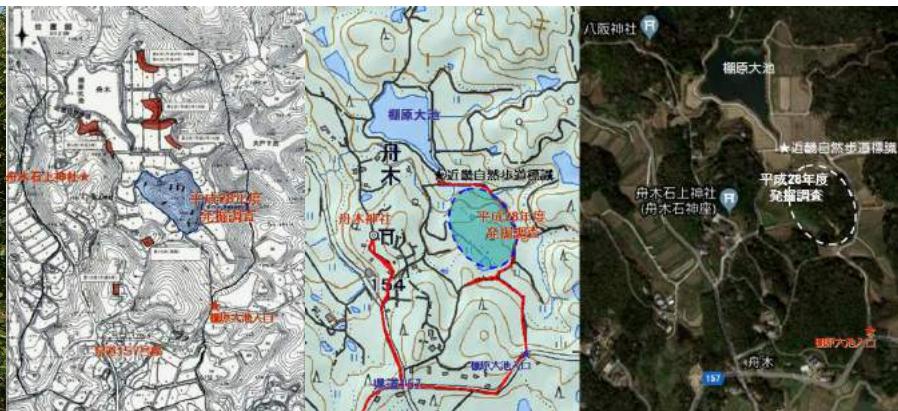
・鉄釣り針（平成28年度出土）

X線撮影の結果、釣針であることが確認されました。残存長（高さ）約2cmで、頭部からちちと部を欠いています。針先の内側には丁寧な研ぎ出した逆刃（かえし）がある単式の釣針です。

これらの工具は、その構造から船用品の可能性が高い鉄器ともとみえられます。

（X線撮影は愛媛大学東アジア古代文化研究センター）





圃場整備された舟木集落の田園 棚原大池を中心とした舟木遺跡エリアの中央部



中央棚原大池から南側を眺める

良く圃場整備された田園が広がる  
棚原大池を中心とした舟木遺跡エリア

周囲を取り囲む丘について部分的に発掘調査が  
されてきた調査域は まだごく僅かであり、  
これからの調査が楽しみである

津名丘陵の山間地集落群がどんなところにあるの  
か、興味津々でやってきましたが、幾重にも丘が  
重なる丘陵地の最上部 海岸部が見通せる位置に  
古くから集落として住み続けられてきた場所。

ゆっくりと舟木遺跡の役割に思いを巡らしながら、  
周囲の丘を眺めることができました。

帰りは県道157舟木の十字路から舟木の集落の  
中を抜けてまっすぐ南へ丘陵地を下って、  
野島に出ることにしました。 10:57



西側の舟木集落の丘  
手前中央から北側に棚原大池が広がる田園、



# 弥生時代後期-終末期の淡路島山間地集落群の中心集落「舟木遺跡」概要【1】

平成29年2月 淡路市教委 淡路市国生みプロジェクト「平成28年舟木遺跡発掘調査結果報告」より整理

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya28/2901/290125funaki.pdf>

淡路島北西部の海から約2 km、標高150mの内陸丘陵地で、南北約800m、東西500mの推定40万㎡の広大な遺跡で、淡路市の丘陵部津名丘陵に点在する約200カ所の弥生時代後期の遺跡群淡路島山間地集落群の中心的集落遺跡。

弥生時代後期の鉄器生産工房を持つ遺跡「五斗長垣内遺跡」から東北に約6 kmの位置に、昭和41年小学生の土器発見により、この弥生遺跡「舟木遺跡」の存在が明らかになり、平成2年から圃場整備事業などの開発工事に伴う発掘調査で、大型の竪穴建物跡、中国鏡の破片や器台、製塩土器、イイダゴ壺などが出土地してきました。

平成27年淡路島における古代の歴史文化を明らかにしようと始まった「淡路市国生み研究プロジェクト事業」として、平成28年舟木遺跡の本格的な発掘調査が実施されました。

遺跡発見の端緒となった土器が出現した尾根（約1ha）の7カ所（総調査面積128m<sup>2</sup>）に設定した幅2mのトレンチ（調査溝）のうち、4カ所から竪穴建物跡、57点にも及ぶ鉄器（小さな針状の工具類や鍛冶に関わるもの）、その他台石、叩石、磨石、砥石などの石器が42点出土。

発掘された大型の竪穴建築物跡4棟のうち3棟は直径10m以上の円形、しかもそのうち1棟は赤く焼けた炉跡4基あって、炉の近くから鉄片が発見され、鍛冶用と考えられる砥石・敲石など石製工具も発見され、中央部が広く作業に適した工房跡（鉄器製作を行った鍛冶工房）と思われます。

また、4棟全てから鉄器製作用とみられる多数の石器類、鉄器の類がでました。

「舟木遺跡」は、武器類の鉄器が多く出た近隣の「五斗長垣内遺跡」とほぼ同時期に存在していましたが、現在のところ武器類以外の生活用？鉄器が中心で、「五斗長垣内遺跡」よりも長く鉄器生産を続けていたと考えられています。

平成28年の調査は、広大な遺跡エリアの中心部に位置する狭い尾根に、限定された地点をトレンチするという方式で、全面発掘ではありませんでしたが、これだけ多くの発見がありました。

また、遺跡エリア内に古くから祀られている石上神社の磐座 石上神社周辺からも大型の器台形土器が発見されている。

平成27年度に中国鏡野発見につながった出土遺物の再整理に続き、本年度は遺跡発見の契機となった尾根を対象として発掘調査を行い、限られた調査面積であったにもかかわらず、五斗長垣内遺跡に続き、多数の鉄器が出土し、ほか 大型の工房建物の存在が明らかになるなど、弥生字体の鉄器文化を解明する上で、極めて重要な遺跡である可能性見えてきた。



淡路島北部 狐生後期の山間地集落遺跡群の中心集落「淡路市 舟木遺跡」  
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「狐生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土  
2017.1.26 神戸新聞他の朝刊より

## 淡路弥生期の鉄器拠点

**舟木遺跡**

「海の民」との関係も推認  
工房跡発見、近畿最大か  
「五斗長垣内」近く 小型工具も出土

淡路に近畿最大の工房跡

「海の民」との関係も推認

多くの小型工具も出土

多數出土した小型工具

## 鉄器の交易なりわいか

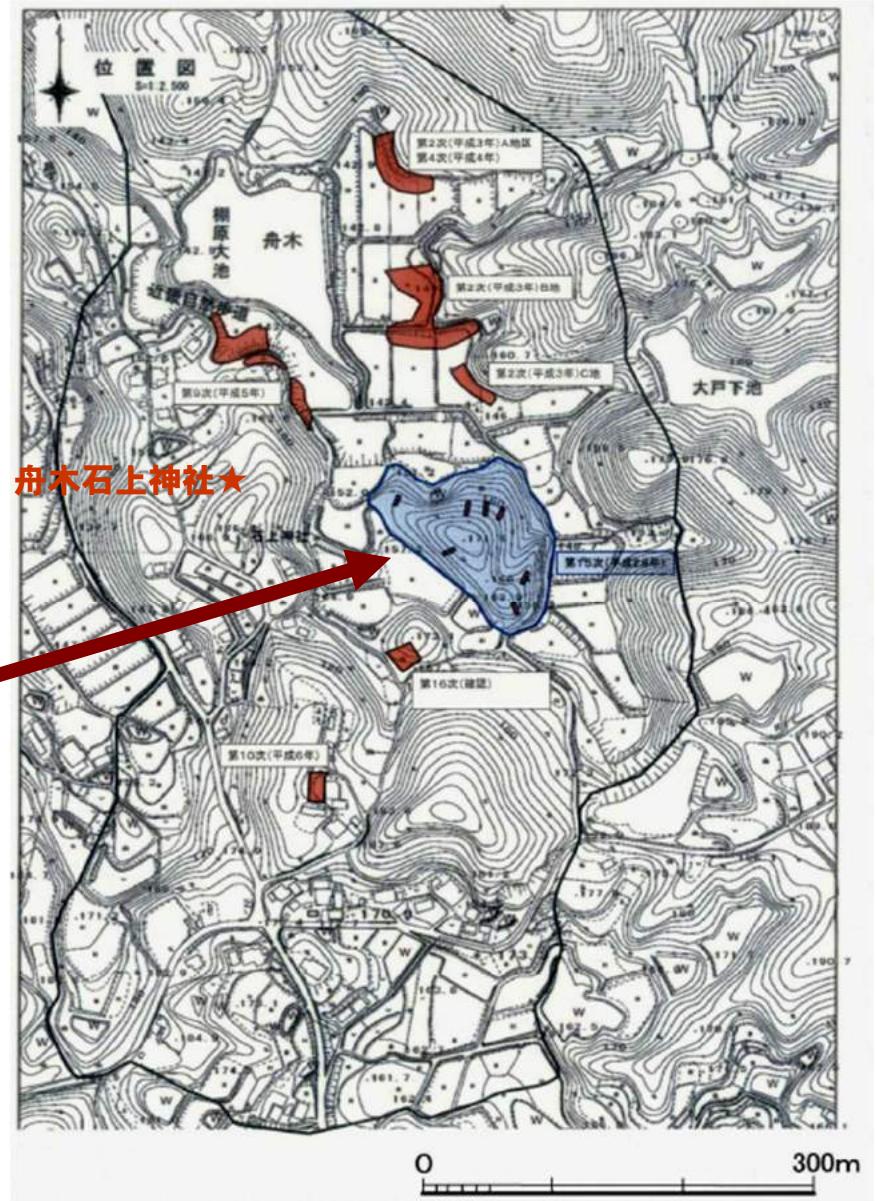
「海の民」との関係も推認

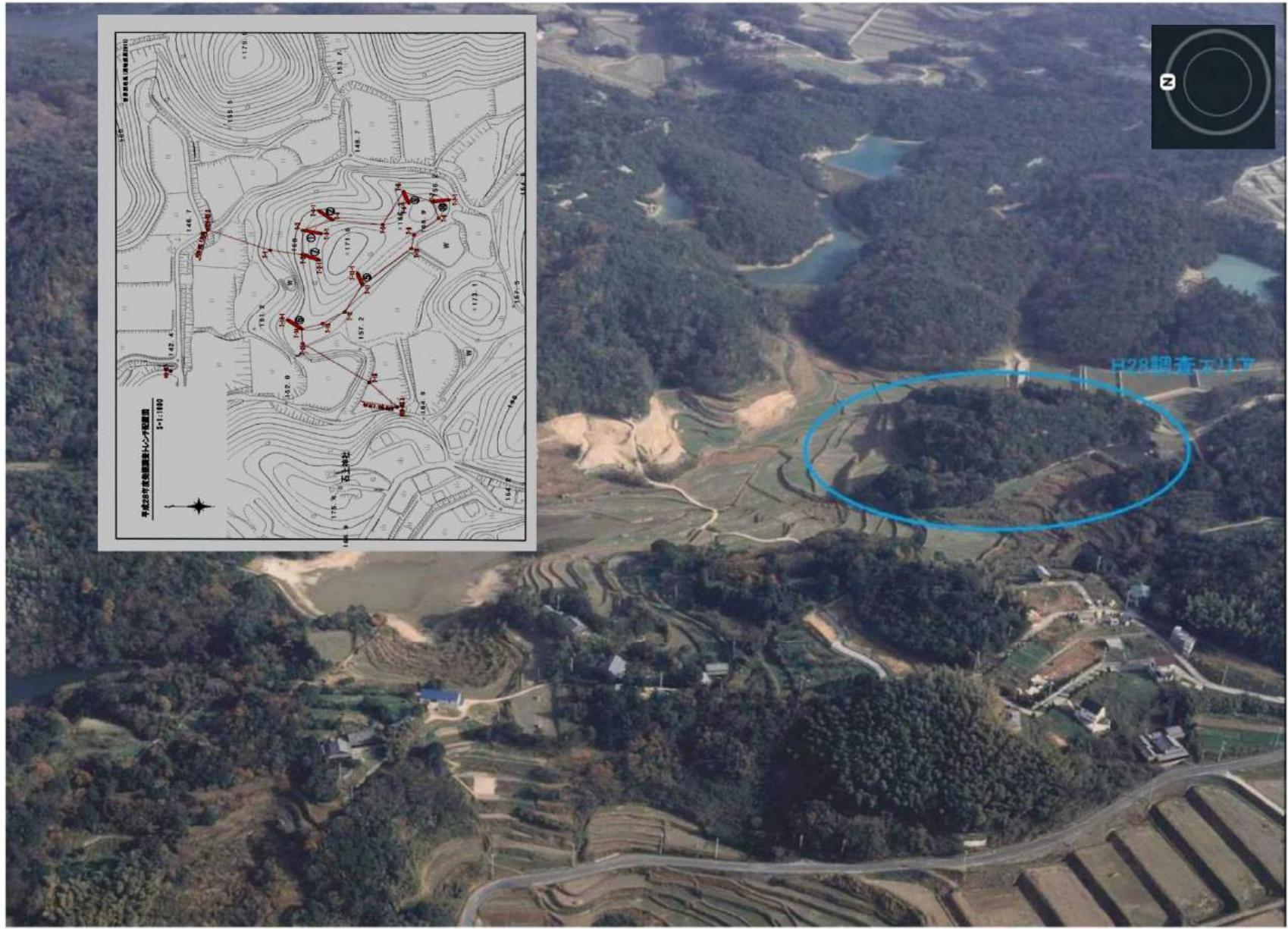
多くの小型工具も出土

多數出土した小型工具

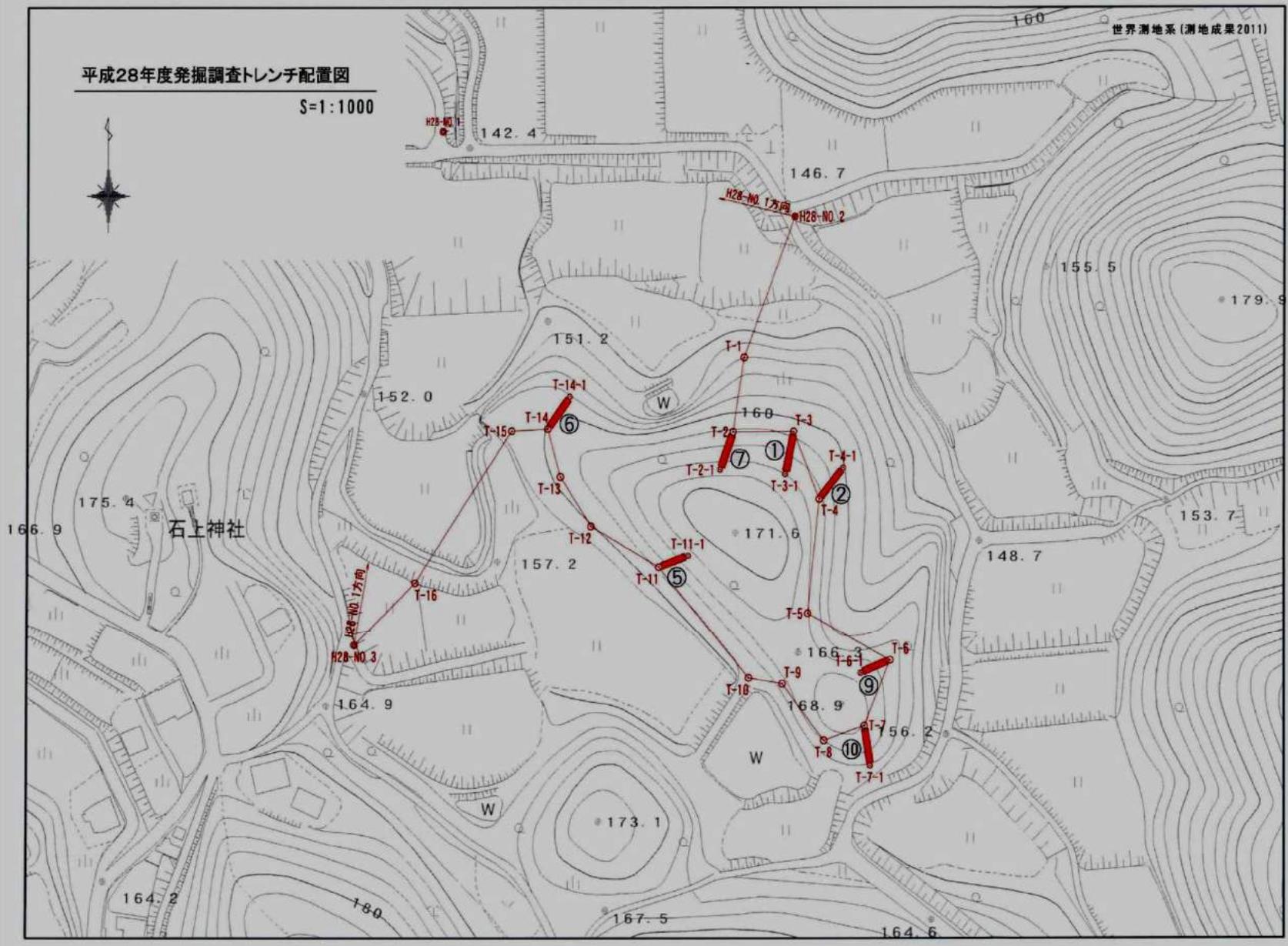


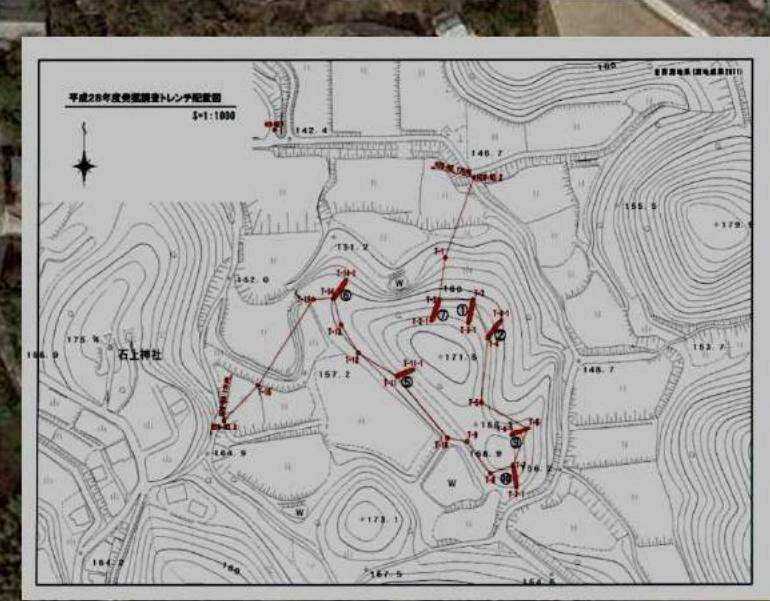
## 舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア





平成 28 年度発掘調査エリア航空写真



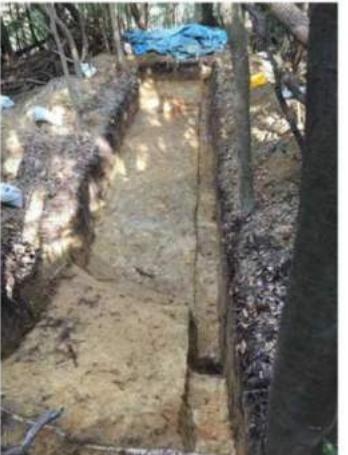
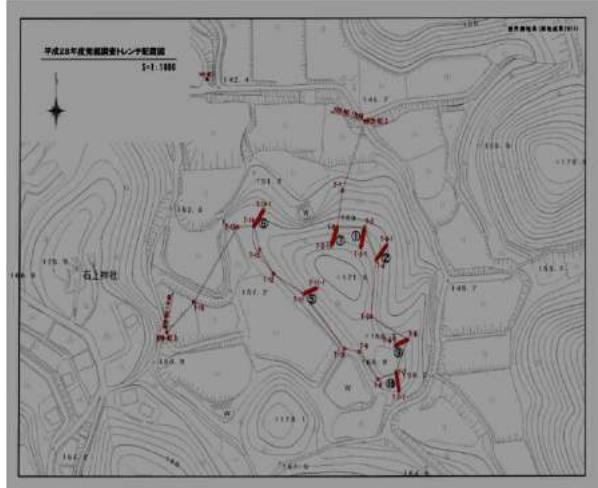


## 参考図

前ページの平成28年発掘調査域の図を見やすくするため  
googleマップ図と重ねました

調査地は私有地なので入れず、道から眺めるのみ  
残念ながら調査地内発掘現場は見られずです

Google

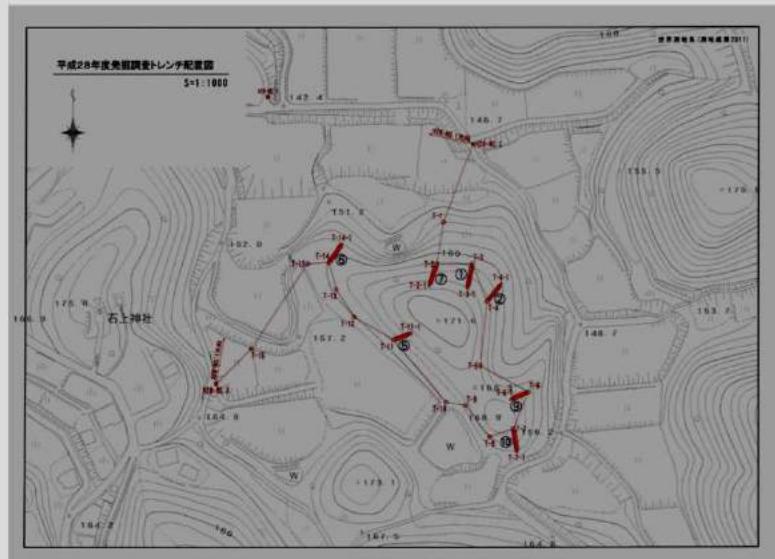


平成 28 年度舟木遺跡出土鉄器

## 有識者のコメント

- ① 弥生時代後期後半から末（庄内期）の大型の堅穴建物跡4棟を検出し、多数の鉄製品が出土している。今回の調査面積が狭小であることを考えれば、五斗長垣内遺跡をしのぐ鉄製品を有する可能性がある。
- ② 出土した鉄製品には鉄器生産（鍛冶）に関連するものと工具類とに分けられる。後者は針状鉄器など、小型の工具類が多く、検出した建物跡にはそれらを使用した何らかの生産工房である可能性が高い。今回の調査範囲には、鉄器生産工房とその他の手工業生産工房からなる大規模な工房群が存在する可能性がある。
- ③ 今回の調査範囲で検出した工房群のほかにも、谷部を取り巻く尾根上には当時の土地開発の痕跡や数多くの建物群が存在することを想定でき、それらが有機的な関係を持って
- ④ №.9 トレンチで検出した一括出土の土器群は、人工的な掘削でできた法面の裾に丁寧に置かれたかのようであり、投棄されたというものではない。その背後の尾根頂上部に展開する平場には工房群を見下ろす重要な遺構の存在を想定させる。
- ⑤ 島にありながら海から隔離された内陸に位置するこの集落遺跡は、立地、構造ともに特異であり、海を見下ろす五斗長垣内遺跡とは全く異なる性格をもった遺跡であったと考えられる。

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長  
村上恭通



○トレンチ調査の確認結果としては、面積に比し効果的な最大限のよい調査成果だと考える。鉄器に特化した工房群としては、堅穴の形態・大きさ、付属施設の面で蓋然性の高いものであり、淡路島のみならず、近畿地方でも邪馬台国活動期を含めて最大クラスの遺跡とみられる。

○舟木遺跡群はこの時期では島内最大の集住性があることが確実といえ、群とみなすことによって、立地や生産基盤を異にする大和・河内・摂津の巨大遺跡群に匹敵する歴史的評価を与えることが可能となる。当該期では近畿屈指の鉄工房遺跡群であり、北淡路が近畿中央部の集落遺跡とも連動する中、鉄器の製作や保有で有力視されることが従前のこの10年の成果を踏まえて立証された。

○中国鏡の早期保有などこの遺跡が周囲の広がり全体を通して、金属器文化の中核を担い始めたようすがはっきりしてきた。今後の調査に大変期待が寄せられる。また、その中枢には鉢巻的な断続的な環濠もあるようで、大量の祭祀土器などが出土している。丘陵の上部分には金属器工房、鉄器工房とも深く関わる政治的施設や祭祀棟などが発見される可能性も高い。

○銅鐸のマツリに始まった淡路の先駆的な社会動向が南部から北部へと躍動的に変化していく状況も把握され、ヤマトの王権がどの段階からこの島に関与をみせ始めたかについて、考えるべき新たな課題が噴出してきた。

○淡路島北部は近畿中心部に向けての弥生後期の鉄器導入に中継地として大きな役割を果してきたと述べてきたが、このたびの調査成果はさらに中継拠点としての地域特性を複数の遺跡が持続的に担っていることを明らかにした点で画期的である。遺跡全体の性格が今後の調査により一段と高まる可能性大である。

奈良県立橿原考古学研究所 共同研究員  
森岡秀人

平成28年度舟木遺跡発掘調査成果一覧表

地区名	遺構				遺物					
	種別	数	形態	備考	鉄器			石器		
No.1					—	—	—	15	2	5
No.2	堅穴建物跡	1棟	隅丸方形 一辺約4.5m	壁際土坑 建替えあり	23	3	1	19	10	6
No.5	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
No.6	堅穴建物跡	1棟	円形 直径約9.6m	建替えあり	1	—	—	1	1	—
No.7	堅穴建物跡	1棟	円形 炉跡4基	建替えあり	4	—	4	7	5	2
No.9	堅穴建物跡 溝状遺構	1棟 1条	円形	—	29	7	1	20	8	5
No.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計					57	10	2	40	42	21
					6	7	6	—	—	—

# 弥生時代後期-終末期の淡路島山間地集落群の中心集落「舟木遺跡」概要【2】

## 平成29年度 淡路市国生みプロジェクト 舟木遺跡発掘調査成果

淡路市教育委員会 2018. 3.15.



金曜日 神戸新聞 (第3種郵便物認可)

## 弥生期の鉄製ヤス出土

淡路・舟木遺跡で近畿初

標高約150mの山上に  
ある同遺跡から漁具の鉄器  
が見つかることで、同市  
教委は鉄器流通の背景に、  
海を往来しながら生活して  
いた「海の民」のネットワ  
ークがあつたことを示す貴  
重な資料とみている。

出土した鉄製ヤスは長さ  
16.5cm、幅は最大1.4cm。  
全体がさびで覆われていた  
が、エックス線写真で分析  
した結果、先端から約1.  
5cm下方に「かえし」が見ら  
れた。ヤスや釣り針にかえ  
しをつくるには高度な技術  
が必要といい、鉄器製造が  
盛んだった九州などから持  
ち込まれた可能性がある。  
また、2016年度調査  
の出土品から、鉄製の釣り  
針も確認された。弥生期の  
釣り針の出土は、県内では  
今下山遺跡(吉屋市)に次  
いで2例目という。

弥生期の鉄製ヤスや釣  
針は、山陰や九州北部で出  
土する例が多い。愛媛大東  
アジア古代鉄文化研究セン  
ターの村上恭通センター長  
は、「山陰は九州から鉄製漁  
具を受け入れ、漁民が鉄器  
の交易を促進した」と分析。  
今回の発見で、漁具が日本  
海側だけでなく「瀬戸内側  
を伝わって来た可能性もあ  
る」と指摘する。

出土した鉄製ヤス

エックス線で撮影した画像には「かえし」が  
あることが分かる(淡路市教委提供)

## 高度な技術 九州などから流通か

2018.3.23. 神戸新聞 朝刊

年次 20年度調査実施範囲  
1:5000

100m

平成20年度実施部分  
平成20年度調査ルート  
平成20年度出土品発見ルート  
平成20年度調査ルート

淡路島 淡路市 洲本市 南あわじ市 淡路市  
舟木遺跡 淡路高 北淡IC 神戸淡路鳴門自動車道  
五斗長崎内遺跡



今月の  
クローズアップ。舟木遺跡

広報淡路 2018年5月号 2018.5.5.

<https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF>

## 近畿初 鉄製ヤスが出土

～平成29年度 舟木遺跡の発掘調査成果を発表～

市教育委員会は、3月22日、平成29年度舟木遺跡発掘調査の成果を発表。魚を突く鉄製挽具「ヤス」や新たな鐵器工房跡などが見つかりました。

弥生時代の鉄製ヤスの出土は近畿で初めてです。航海技術を持つ「海の民」によって、九州北部などからもたらされた可能性があります。



- ①弥生時代の鉄製漁具「ヤス」
- ②鉄製の釣り針
- ③三次元レーザー測量による赤色立体地図。矢印位置が調査場所。北側に遺跡が広がる可能性が出てきた。
- ④堅穴建物跡。示している場所で伊が見つかった。
- ⑤まとまって見つかった弥生土器

平成29年度 平成28年度と同じ丘陵部 前年度出土した3棟の竪穴住居を見下ろす頂上部で1棟の鍛冶炉のある大型竪穴住居が出土。また本年も104点の鉄器のほか土大量の土器や出土。其の中に鉄製ヤスも含まれていました。 わかに イイタコ壺や製塩土器もふくまれていました

## 神戸新聞 Next 2018.3.23. 記事 書き写し 弥生期の鉄製ヤス出土 淡路で近畿発

兵庫県淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、鉄製のヤスが見つかり、同市教育委員会が22日、発表した。弥生期の鉄製ヤスの出土は山陰地方や九州北部で例があるが、近畿では初めてという。標高約150メートルの山上にある同遺跡から漁具の鉄器が見つかったことで、同市教育委は鉄器流通の背景に、海を往来しながら生活していた「海の民」のネットワークがあったことを示す貴重な資料とみている。出土した鉄製ヤスは長さ16・5センチ、幅は最大1・4センチ。全体が鏽で覆われていたが、エックス線写真で分析した結果、先端から約1・5センチ下方に「かえし」が見られた。ヤスや釣り針にかえしをつくるには高度な技術が必要といい、鉄器製造が盛んだった九州などから持ち込まれた可能性がある。

また、2016年度調査の出土品から、鉄製の釣り針も確認された。弥生期の釣り針の出土は、県内では会下山遺跡（芦屋市）に次いで2例目という。

弥生期の鉄製ヤスや釣り針は、山陰や九州北部で出土する例が多い。愛媛大東アジア古代歴文化研究センターの村上恭通センター長は「山陰は九州から鉄製漁具を受け入れ、漁民が鉄器の交易を促進した」と分析。今回の発見で、漁具が日本海側だけでなく「瀬戸内側を伝わって来た可能性もある」と指摘する。

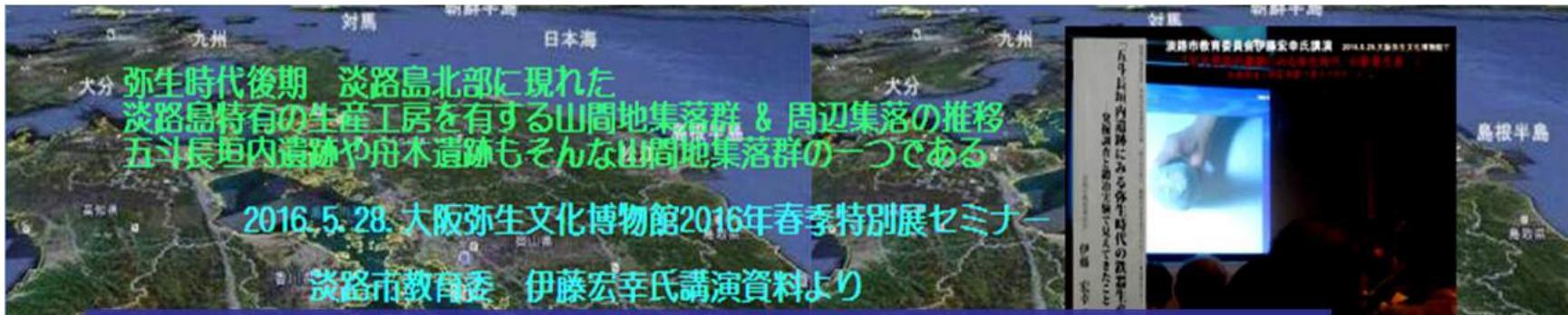
今回の調査で淡路市教委は、3次元レーザーを使って上空から同遺跡の測量も実施。地表面の起伏を詳細に分析した結果、遺跡の範囲が従来より北に約300メートルほど広がる可能性があることも分かった。

調査成果の報告や出土遺物の展示は25日午後1時半から、同市小倉の北淡震災記念公園セミナーハウスである。申し込み不要。同公園TEL 0799・82・3400

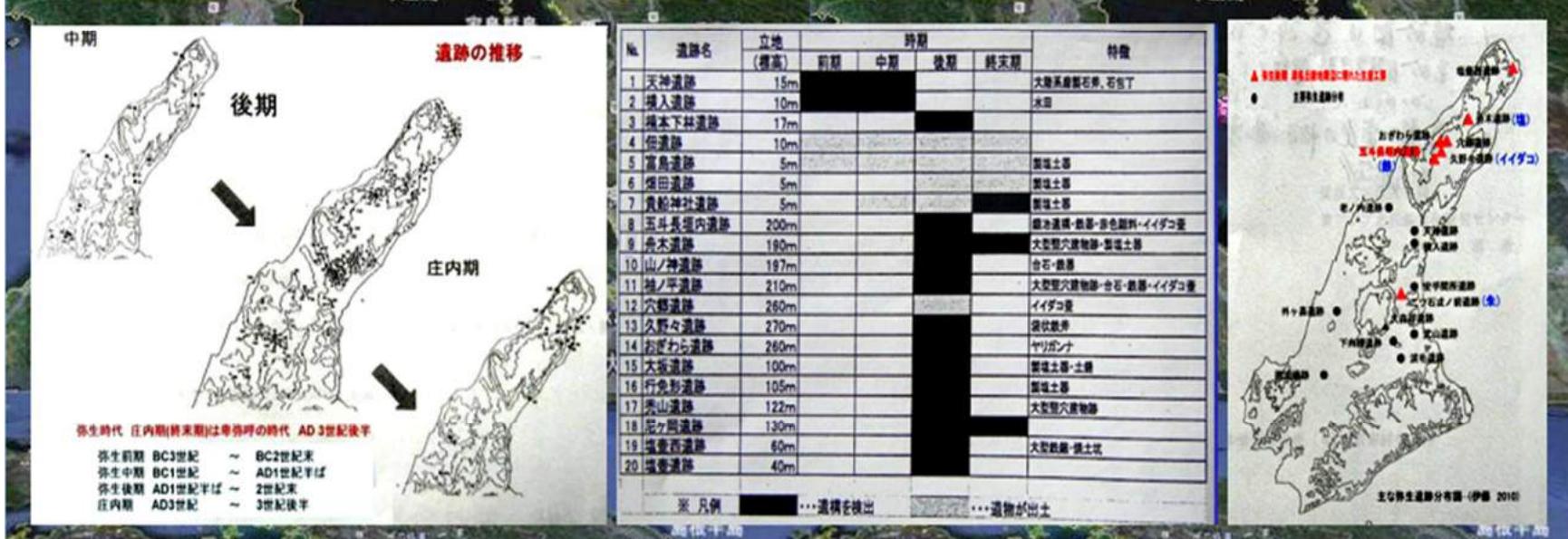


出土したヤス エックス線で撮影した画像には「かえし」があることが分かる（淡路市教委提供）



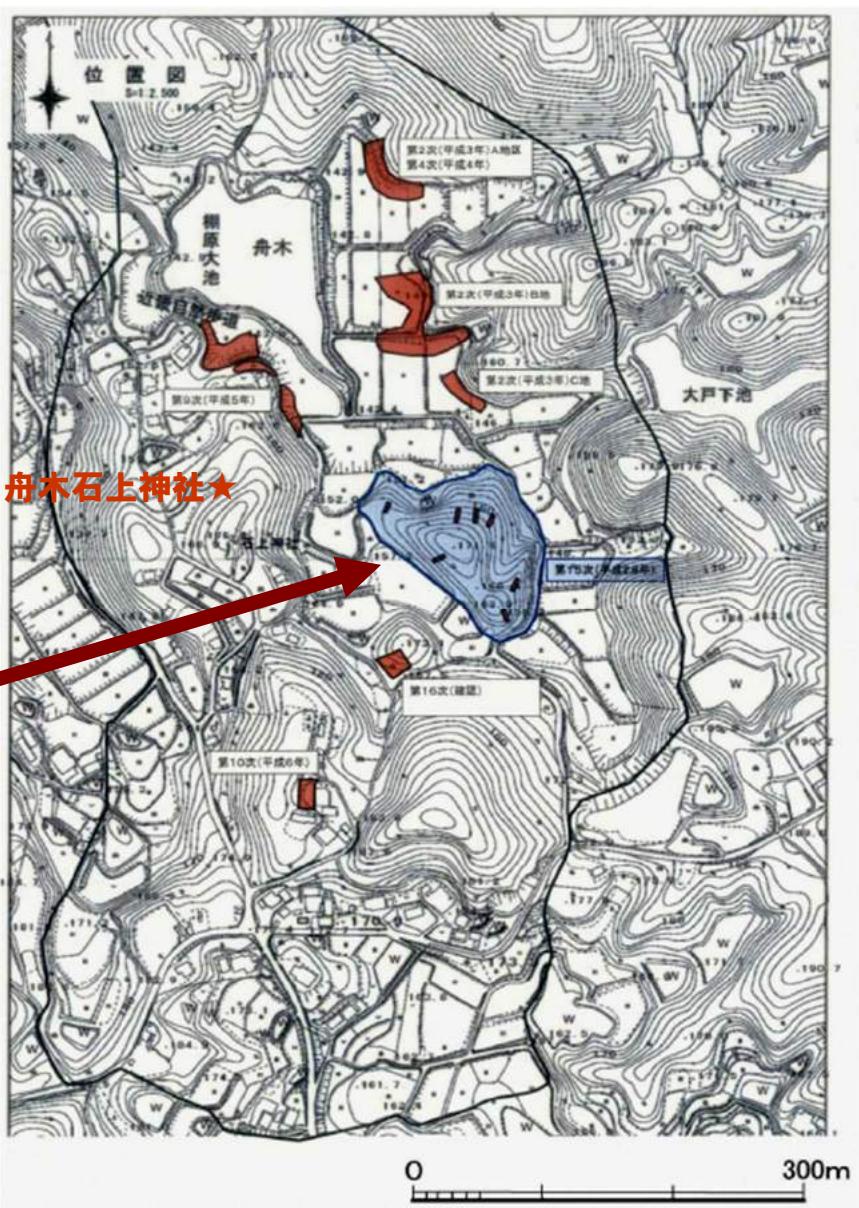


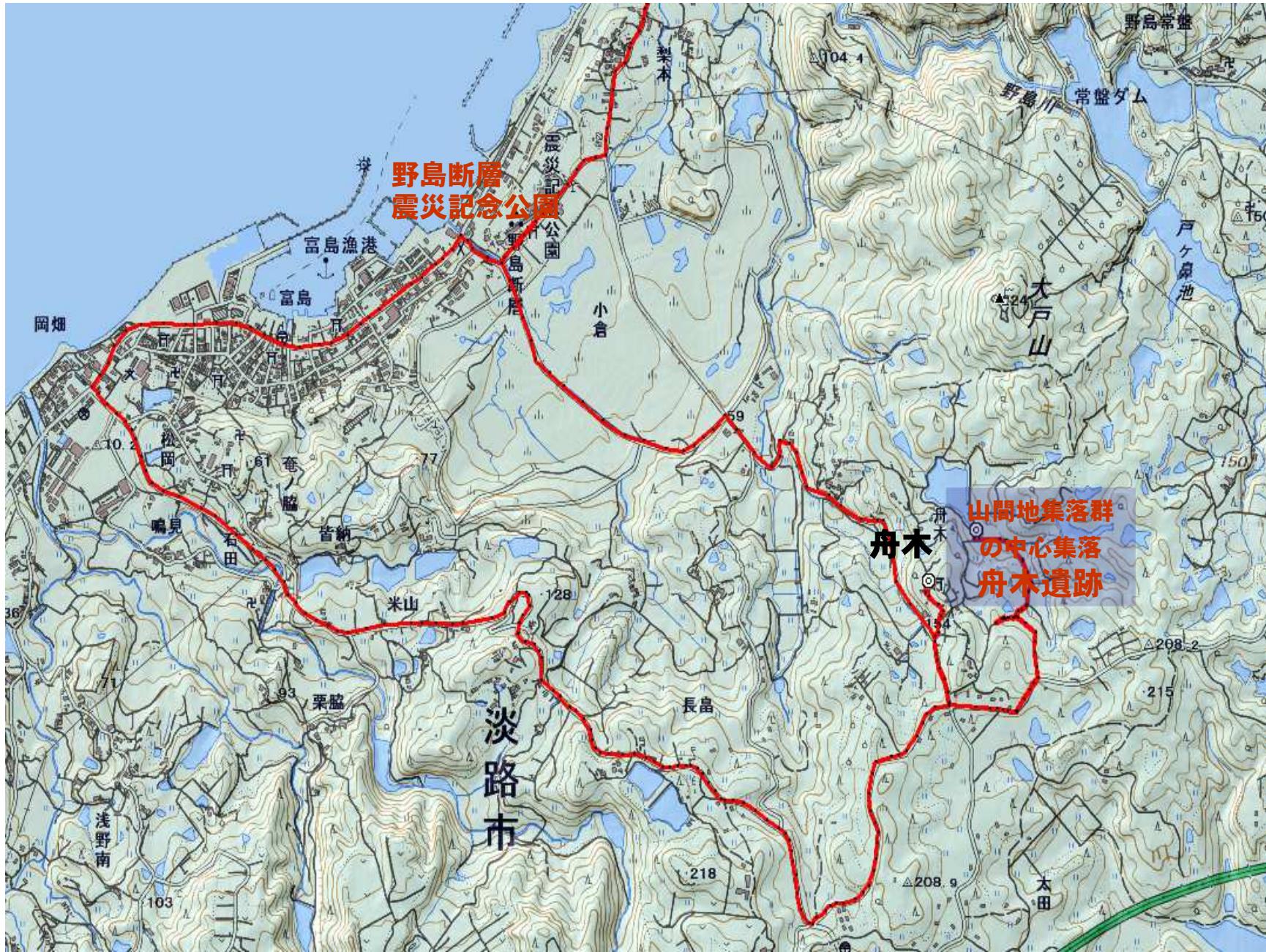
「和鉄の道」 <http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm> より



津名丘陵周辺 稲作が行えぬ高地に出現した軍事的性格を持たぬが、  
生産工房など多様な生活様式を営む弥生時代後期の集落遺跡群。  
島では海岸よりも山間地を貴く方が幹線道路として機能しやすかった事情で生まれたとする向きもあり、  
流通の拠点集落と考えられている。五斗長垣内遺跡も山間地集落群の一つ  
また舟木遺跡は終末期までも續く山間地集落遺跡の中心とみられている。

## 舟木遺跡の位置と遺跡エリア







:県道157号線を舟木集落へ引き返す 2018.8.29. 11:2





帰りは舟木集落から、津名丘陵をまっすぐ南の野島へ  
集落を抜けて急な坂道を下りました

2018.8.29.



津名丘陵 舟木集落から眺める野島海岸遠望 2018.8.29.



舟木集落の下へ 急な坂をジグザグに下る 2018.8.29.  
野島から津名丘陵を眺めに途中まで登ったところだった



野島の上の傾斜地 ジグザクの坂道の上の津名丘陵の最上部にある舟木集落を眺める(1)  
2018.8.29. 11:05



野島の上の傾斜地 ジグザクの坂道の上の津名丘陵の最上部にある舟木集落を眺める【2】  
2018.8.29. 11:05



北淡震災記念館 駐車場からながめる津名丘陵 舟木集落周辺 2018.8.29. 11:18

# 卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に 弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

1. 淡路島の西北部海岸 野島海人の郷 野島

弥生後期の製塩工房 貴船神社遺跡

淡路市野島大川

2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点

弥生後期 鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木

## 国生みの島 淡路島

淡路島北部を南北に走る津名丘陵 その西北域の海岸は航海術にたけた古代野島海人の里  
航海術にたけ、朝鮮半島・日本各地と交易する淡路の海人の大和との密接な関係が記紀に記載  
されている

（淡路島の海人のルーツは安曇族といわれ、

国生み神話の原型もこの海人たちの伝承を初期大和王権が取り込んだとの説もある。）

また、この弥生後期からは古墳時代初期にかけ、背後の丘陵には「舟木遺跡」を中心に山間地  
集落群が出土し、集落には海人と密接な関係を示す鉄器加工・製塩などの生産工房があり、  
交易拠点の姿が浮かび上がってきてている。

鉄製産技術がなく、朝鮮半島の鉄に頼るこの時代 淡路島は畿内に先駆け鉄器文化を持ち込み、  
その生産拠点として 国づくりの先端を走った実像が見えてきた

国生みの神話が実像に 淡路島が今注目されている。

国内最大級の鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡の出土以来 何度もでかけたこの淡路島北西部沿岸  
の丘陵地ですが、五斗長垣内遺跡以外に山間地集落周辺を歩いたこと無し。

ぜひとも 舟木遺跡周辺を歩いてみたいと期待をつのらせながら、この夏の終わり淡路島へ

卑弥呼・初期大和連合の国造りの始まり

畿内で 先駆けて鉄器文化を持ち込みにほんのくにづくりで役割を演じたとみられる  
淡路島 国生み神話の実像が見えてきた。

巧みな航海術を持つ淡路島の海人たちが淡路島山間地に鉄・塩などの生産工房を持ち、  
広く交易拠点として活躍し、日本の国造り「国生み」に役割を演じたろう。

また、この舟木集落の中心にある舟木石上神社・舟木石神坐（磐座）が、  
女人禁制として今尚祀られているのを知り、びっくりする。

卑弥呼のイメージもだぶらせ、思いつきかもしませんが、  
国生み神話とこの津名丘陵と舟木集落の結びつきにも思いを馳せています。

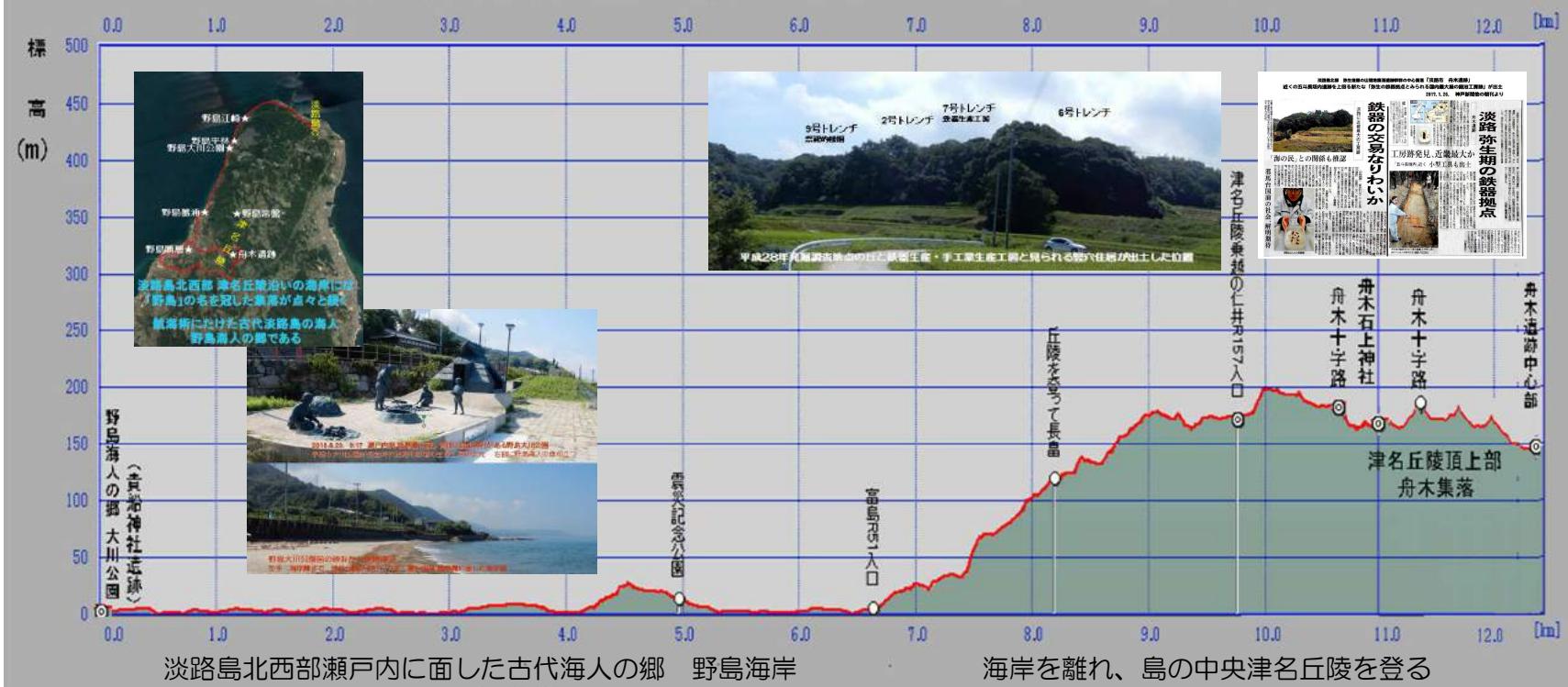
弥生後期の津名丘陵に五斗長垣内遺跡に続く鉄器工房の出土に是非とも訪ねてみた  
かった舟木遺跡。うれしい津名丘陵の山間地集落の中心 舟木遺跡探訪となりました。

渋滞 7km 明石大橋を渡りながら 2018.8.29. Mutsu Nakanishi





## 古代海人の郷 野島海岸から津名丘陵を登って 山間地集落群の中心「舟木集落遺跡」へ



# 卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島? 国生み神話が現実に 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

「弥生の後期から終末期にかけて 畿内に先駆け、鉄器文化を持ち込み、交易を通じて国造りに役割を演じたとみられる淡路島の海人たちの活躍の場がどんなところだったのだろうか?」と好奇心一杯で、野島の海人の郷といわれる淡路島北西部海岸や 海人たちと密接な関係にあったと考えられる津名丘陵の山間地集落群の中心舟木遺跡周辺の現地探訪の様子をスライド動画にしました。

この「国生み島・淡路島」の実像についての私の集めた資料は  
このスライド動画と合わせて PDF fileにして 添付しています。

1. 概要文献資料 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.  
**国生み神話の淡路島が 卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす?**
  - ◎ 淡路島北部 瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷 淡路市野島 史料
  - ◎ 舟木遺跡 最近の新聞トピックス並びに発掘調査資料
2. Photo アルバム  
津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.
3. 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】関連資料整理 リスト
  - ◎ 和鉄の道・Iron Road :掲載リスト
  - ◎ インターネットほかから 収録した関係資料リスト

by Mutsu Nakanishi

県道71号 長畠集落から眺める津名丘陵の山腹に広がる棚田 2018.8.29. 10:04

## ■ 和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi 【1】

### 1. 卑弥呼の時代を解き明かす? 2018.3.23. 神戸新聞より

淡路島弥生後期の大山間地集落群淡路市舟木遺跡.

弥生期の鉄製ヤスが出土 海の民や北部九州とのつながりを示す?

■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018iron/18iron03.pdf>

### 2. 淡路島弥生時代の鉄器拠点「淡路市 舟木遺跡」鉄器の交易をなりわいか?

近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点 国内最大級の鍛冶工房跡」が出土

■html : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm>

■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/2017iron/17iron01.pdf>

### 3. 大阪弥生文化博物館2016年春季特別展第3回考古学セミナー

淡路市教委 伊藤宏幸氏講演「淡路島 五斗長垣内遺跡にみる弥生時代の鉄器生産」

聴講まとめ by Mutsu Nakanishi 2016.5.28

■html : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607awaji00.htm>

■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016iron/16iron07.pdf>

### 4. 淡路文化資料館 淡路市教育委員会 伊藤宏幸氏講演資料 2015.12.12.

「淡路島の弥生時代と山間地集落 五斗長垣内遺跡と舟木遺跡」

■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funakiR3awajiregime.pdf>

### 5. 弥生後期から卑弥呼の時代へ ベールを脱いだ「弥生のIron Road 和鉄の道」

淡路島 五斗長垣内遺跡の謎 シンポ 2010.11.21. 聴講 して

■html : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012gossa00.htm>

■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron14.pdf>

### 6. 弥生時代から卑弥呼の邪馬台国・大和初期王権へ 国家形成の時代を動かした「鉄」

2010 年秋 関西各地で開催された特別展とそのシンポジウム & 連続講演会 聴講まとめ  
無手勝流で 鉄をキーワードに 弥生から邪馬台国・大和王権への変遷を整理

■html : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012hmko00.htm>

■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron13.pdf>

## ■ 和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi 【2】

7. 淡路島 秋帆銅鐸は出雲と同じ鋳型の兄弟銅鐸  
国生神話の出雲・淡路は強い結びつき  
■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016iron/16iron14.pdf> 2016.10.14..
8. 「伊弉諾神宮 国生み神話の島」 淡路島で 大量の埋納銅鐸出土【1】  
2015.5.20. 大和の進出による新旧勢力交代による 国づくりの始まりを示すのか ???  
国譲り神話の出雲の大量の埋納銅鐸出土(加茂岩倉・荒神谷遺跡)とそっくり  
■html : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1506doutaku00.htm>  
■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/2015iron/15iron10.pdf>
9. 「伊弉諾神宮 国生み神話の島」 淡路島で大量の埋納銅鐸出土【2】 2015.7.1  
南淡路でみつかった埋納銅鐸 松帆銅鐸（弥生時代前期末～中期前半）  
■PDF : <http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/2015iron/15iron11.pdf>

## ■ インターネット他 参考資料

国生み神話の淡路島が 卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす?

1. 概要資料 淡路島日本遺産 弥生時代後期の山間地集落群の中心舟木遺跡 2018.8.25.
  - ◎ 淡路島北部 瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷 淡路市野島
  - ◎ 畿内に先駆けて鉄器文化を取り入れ、  
鉄器加工や製塩など生産工房群を展開した山間地集落群の中心 舟木遺跡

■PDF <http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/14iron/1809awajifunakiwebkensaku.pdf>
2. 平成28年度 舟木遺跡の発掘調査成果について 淡路市教育委員会 2017.1.24.  
資料アレンジ整理しました

■PDF : <http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya28/2901/290125funaki.pdf>
3. 平成29年度 舟木遺跡の発掘調査成果について 淡路市教育委員会 2018.3.25.  
資料アレンジ整理しました

■PDF : [https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/life/22931\\_51066\\_misc.pdf](https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/life/22931_51066_misc.pdf)
4. 広報淡路 2018年5月号 近畿初の鉄製ヤスが出土 2018.5.5.

■PDF : <https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF>

# 卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島? 国生み神話が現実に 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.

国生みの島 淡路島 弥生後期の淡路島北部の津名丘陵  
海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ山間地集落群が出土

毎日 明石海峡越しに眺める 淡路島 津名丘陵  
国生みが現実に!!  
でも 調査はまだ これから 楽しみにしています

2018.9.5. Mutsu Nakanishi



明石海峡越しに旗振り山から眺める淡路島北部中央を南へ伸びる津名丘陵